

科目の区分	基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
論理と表現	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的：看護職にとって事象を分析的・論理的に思考し科学的なものの表現方法を身につけることは全ての基礎として重要である。語彙力を強化し、話力を身につけ系統立てて読解・記述できるスキルを身につける 目標：①論理的方法について理解する ②自分の言葉で相手に分かりやすく表現できる ③クリティカルシンキングの手法を習得できる ④演習を通して基本的な文読解力、批判精神、表現力を身につける				
評価方法：1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	文章	自分を表現する		
2回	文章	わかりやすい文章を書く		
3回	文章	日本語について考える		
4回	文章	正しい日本語を使う		
5回	文章	相手を尊重する気持ちを伝える文章		
6回	文章	相手をわかりやすく正確に伝える文章		
7回	語彙力	相手に伝わる説明をするには①		
8回	話力	相手に伝わる説明をするには②		
9回	話力	相手に伝わる説明をするには③		
10回	メール	メールの基本的な書き方		
11回	レポート	レポートを書くために		
12回	レポート	レポートを書く(表現編)		
13回	レポート	レポートを書く(実践)		
14回	レポート	レポートを書く(総まとめ)		
15回	終講試験 評価：レポート 100点分			
使用テキスト：				
備考：臨床経験、教育経験を踏まえ、論理的思考を用いた表現方法を教授する				

科目の区分	基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
倫理学	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
<p>目的: 社会における倫理的問題について認識し、倫理原や価値観について理解を深める。その上で医療や福祉における倫理的判断や行動についてその重要性を認識してアプローチ法を学ぶ。さらに看護倫理の基礎的知識と看護師としての基本的姿勢と態度を学び、患者の権利擁護を目指した看護師に行動について考察する。</p> <p>目標: ①社会における倫理的問題について認識し、倫理原則や価値観について説明できる  ②看護倫理の基礎的知識と看護師としての基本的姿勢と態度について理解できる  ③医療における倫理的判断や行動について協議できる  ④患者に権利擁護(アドボカシー)をめざした看護師の行動について討議できる</p>				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	倫理学の基本	倫理学の基本的な考え方		
2回	生命倫理の課題	最先端医療と制度		
3回	生命倫理の課題	出生をめぐる倫理的課題		
4回	生命倫理の課題	人生の最終段階をめぐる倫理的課題		
5回	看護倫理	看護倫理とはなにか		
6回	看護倫理	専門職としての倫理		
7回	看護倫理	患者と権利とアドボカシー		
8回	倫理的問題へのアプローチ	倫理的問題へのアプローチ法		
9回	倫理的問題へのアプローチ	倫理的問題へのアプローチ法		
10回	事例展開	個人ワークにて事例を考える		
11回	事例展開	グループワークにて意見交換		
12回	事例展開	グループワークにて意見をまとめる		
13回	事例検討発表	グループワークにてまとめた意見を発表 他のグループと意見交換		
14回	発表時のリフレクション	各グループの発表をリフレクション		
15回	終講試験 筆記試験			
使用テキスト: 系統看護学 看護倫理 医学書院				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、看護師として備える倫理を教授する				

科目の区分	基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護と教育	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的: 人間は教育により人間として生きていく能力を獲得する。社会もまた教育された人間によって構成される。過去の文化遺産を現在に適応させ、未来を創造するのを担う教育について学ぶことは、人間を理解するうえで重要な要素である。人間にとっての教育—学習の意義を学び、看護師としての指導技術や生涯学習について幅広く学ぶ 目標: ①教育—学習の意義について理解する ②教育の方法について理解できる ③看護師が担う健康教育について理解できる。 ④看護師が担う健康教育健康について修得できる				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	教育学の概説	「教育学を学ぶにあたって」「教育のあり方」「教育の種類」「社会変動と教育」「教育		
2回	教育学の概説	他者との関わりと導く		
3回	教育のなりたさせるもの	教育の受け手を見守る		
4回	教育のなりたさせるもの	教育の目標と評価		
5回	看護師が担う健康教育	対象理解 地域・グループを知る(フィールドワーク)		
6回	看護師が担う健康教育	対象理解 地域・グループを知る(フィールドワーク)		
7回	看護師が担う健康教育	教育の営みを考える 教育の目標と評価		
8回	看護師が担う健康教育	患者指導計画における指導、教育とは		
9回	看護師が担う健康教育	目的、目標の設定、構成要素 自分の学習目標の設定 評価の構成要素、評価の種類		
10回	看護師が担う健康教育	演習オリエンテーション 患者指導作成用紙に沿って健康教育案作成		
11回	看護師が担う健康教育	患者指導作成用紙に沿って健康教育案作成		
12回	看護師が担う健康教育	患者指導作成用紙に沿って健康教育案作成		
13回	看護師が担う健康教育	模擬演習発表(グループごとに)		
14回	看護師が担う健康教育	リフレクション		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学 基礎看護学[1]～[3] 教育学 医学書院				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、看護師として実習する教育方法を教授する				

科目の区分	基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護情報科学	講義	1年次前期	1単位／30単位	外部講師
目的: 情報科学の基礎的事項及び、医療看護と情報システムの関わりについて学び活用能力の向上を目指す。 目標: ①情報科学の基礎的知識が習得できる ②iPadが活用できる ③動画撮影・編集を通して情報科学の技術向上を図れる ④プレゼンテーションができる				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	看護情報科学とは	オリエンテーション		
2回	iPad活用方法	学習効率上げる電子教科書の活用方法 ページを開く		
3回	iPad活用方法	学習効率上げる電子教科書の活用方法 マーカーをつける、付箋を貼る		
4回	iPad活用方法	学習効率上げる電子教科書の活用方法 メモの活用		
5回	Word(基本技術の復習)	文章作成、表の作成、レイアウト		
6回	Word(基本技術の復習)	文書の作成、文書の編集、表現力のアップ法、		
7回	Excel(基本技術の復習)	データの入力、表作成、関数の利用		
8回	Excel(基本技術の復習)	グラフ作成、統計処理		
9回	PowerPoint	プレゼンテーション作成、図やオブジェクトの挿入と編集 図表・グラフ・表の挿入と編集		
10回	PowerPoint	特殊効果 実践		
11回	動画撮影、編集	動画撮影		
12回	動画撮影、編集	編集		
13回	ZOOM	ZOOM使用、活用		
14回	ZOOM	実施、リフレクション		
15回	終講試験			
使用テキスト:				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、看護師として必要な医療看護と情報システムを教授する				

授業科目名の区分	基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護の数式と物理	講義	1年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的: 看護技術や医療における検査・治療法に関する原理・原則の理解を深めるための知識や安全で快適な作業環境、安全で使いやすい器具、技法、効率よく充実した生活環境の実現に繋げる 目標: ①単位換算、計算の基本事項を理解する ②看護に必要とされる物理、数式を理解し、応用を身につける ③演習を通して実施できる				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	四則計算	四則計算とその応用 単位、小数点の扱い、%パーセント		
2回	比の計算	比の計算とその応用 溶液に関する数式とその応		
3回	比の計算	輸液に関する数式とその応用 滴下数、滴下速度		
4回	物理	摩擦力、重心、物体の働く釣り合い 身体にみられるこの原理		
5回	化学	原子、分子 電解質		
6回	化学	PH、状態変化		
7回	数式とその応用	臨床に関する数式とその応用 シミュレーション		
8回	終講試験			
使用テキスト: メディックメディア 看護初年度コレダケー生物、数学、物理、化学、ことば一				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、看護師として必要な数式と物理を教授する				

科目の区分	基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
人間関係論	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的: 人間関係を円滑に保つ技法およびカウンセリングの技法に基礎を学び、自己・他者理解を積極的に行い看護の場面に生かす能力を身につける				
目標: ①看護における人間関係が理解できる ②交流分析について理解できる ③カウンセリングの理論について理解できる ④カウンセリング技法を修得できる				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	看護における人間関係	闘病生活を支える人間関係 家族の人間関係と看護師の関わり		
2回	コミュニケーション	コミュニケーションの基本 コミュニケーションと人間関係		
3回	コミュニケーション	コミュニケーション演習		
4回	コミュニケーション	コミュニケーション演習		
5回	交流分析	交流分析とは 交流分析と看護		
6回	交流分析	具体的方法と分析方法		
7回	交流分析	交流分析演習		
8回	カウンセリング	看護とカウンセリング		
9回	カウンセリング	カウンセリング理論		
10回	カウンセリング	カウンセリングの技法 信頼関係の構築方法		
11回	カウンセリング	カウンセリングの実際(演習)		
12回	カウンセリング	カウンセリングの実際(演習)		
13回	カウンセリング	カウンセリングの実際(演習)		
14回	カウンセリング	カウンセリングの実際(リフレクション)		
15回	終講試験 筆記試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 人間関係論 医学書院				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、人間関係を円滑にする知識と技術を教授する				

科目の区分	基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
国際文化と言語	講義	1年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的: 日本に在住する外国人の実態を知り、自ら外国人に医療を提供するにあたり 在住外国人について基礎的知識を学び、医療現場での対応や工夫を考えられ 医療現場での外国人によりよいサービスを提供できる。 目標: ①日本に在住する外国人について基礎的なことを理解する ②様々な国の文化を知る ③医療現場、地域での外国人医療制度の実態について学ぶ ④外国人が医療を受けるケースを想定し対策、対応を修得できる				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	基礎的な知識	在住外国人についての基礎的知識 日本に在住する外国人の国、数、推移、在留目的、地域		
2回	基礎的な知識	在留についての制度や支援 在留許可の基準、日本語を学ぶ方法		
3回	在住外国人から学ぶ	日本での生活について 日本の生活と母国の生活の違いや戸惑い		
4回	在住外国人から学ぶ	簡単な言語を学ぶ 英語、中国語、ベトナム語、ネパール語、南米の国等		
5回	外国人支援	医療現場、地域における外国人への医療支援		
6回	在住外国人から学ぶ	医療現場での外国人対応の実際 GW		
7回	在住外国人から学ぶ	医療現場での外国人対応の実際 発表		
8回	終講試験			
使用テキスト:				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、外国人に対応できる知識と技術を教授する				

科目の区分	基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
フィジカルフィットネス	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:健康・体力の維持増進を含め、自己の身体及び身体運動のもつ意義や人間にとってのリクリエーションの意義を考える。社会適応力に積極的に関わる能力を養う。 目標:①一生を通して実施できる生涯スポーツ種目を多く体験する ②身体活動の記録をつけて運動習慣を身につける ③実技を通して協調性、積極性、創造性を身につける				
評価方法:1. 最終課題(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%)1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	オリエンテーション ストレッチ	授業の狙い ピラティス		
2回	ストレッチ	ピラティス		
3回	ストレッチ	ピラティス		
4回	ストレッチ	ピラティス		
5回	ストレッチ	ピラティス		
6回	オリエンテーション 笑いヨガ	授業の狙い ラフテーヨガ		
7回	笑いヨガ	ラフテーヨガ		
8回	笑いヨガ	ラフテーヨガ		
9回	笑いヨガ	ラフテーヨガ		
10回	オリエンテーション ヨガ	授業の狙い 自律神経を整えるヨガ		
11回	ヨガ	自律神経を整えるヨガ		
12回	ヨガ	自律神経を整えるヨガ		
13回	ヨガ	自律神経を整えるヨガ		
14回	ヨガ	自律神経を整えるヨガ		
15回	最終課題	授業内容の成果発表		
使用テキスト:				
備考:臨床経験、教育経験を踏まえ、自身・他者を豊かにする技術を教授する				



科目名 フィジカルフィットネス

授業内容(シラバス)1回=1コマ=90分

回数	授業内容	指導方法
1回	オリエンテーション:授業の狙い ストレッチ:ピラティス	講義 演習
2回	ストレッチ:ピラティス	演習
3回	ストレッチ:ピラティス	演習
4回	ストレッチ:ピラティス	演習
5回	ストレッチ:ピラティス	講義 演習
6回	オリエンテーション:授業の狙い 笑いヨガ:ラフテーヨガ	講義 演習
7回	笑いヨガ:ラフテーヨガ	演習
8回	笑いヨガ:ラフテーヨガ	講義 演習
9回	笑いヨガ:ラフテーヨガ	演習
10回	オリエンテーション:授業の狙い 自律神経を整えるヨガ	講義 演習
11回	自律神経を整えるヨガ	演習
12回	自律神経を整えるヨガ	演習
13回	自律神経を整えるヨガ	演習
14回	自律神経を整えるヨガ	演習
15回	最終課題:リクリエーション成果の発表	

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
人体の構造と機能	講義	1年次前期	1単位／45時間	外部講師
目的: 人体の生命現象のメカニズムを理解するために、人体の構造と機能を学び、生活体としての人間の理解に活用するとともに、看護師に求められる疾患の理解につなげる。 目標: ①人体各部位・器官の名称と、構造の特徴を説明できる ②各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	総論	身体部位の名称と区分、細胞の機能		
2回	血液造血器・免疫系	血液の組成と機能、生体の防御機能と作用		
3回 4回	脳神経系	神経系の構造と機能 中枢神経と末梢神経、脊髄反射		
5回	感覚器系	視覚、聴覚・平衡覚、臭覚、味覚、触覚の構造と機能		
6回 7回	運動器系	骨格と筋の構造 骨と筋の機能と筋収縮のしくみ		
8回 9回 10回	呼吸器系	呼吸器系の構成と構造、換気のしくみ		
11回 12回 13回	循環器系	心臓の構造、体循環と肺循環、血管の分類、 主な血管の名称、リンパ循環		
14回 15回 16回	消化器系	消化管と肝胆膵の構造と機能		
17回 18回	腎泌尿器系	体液調節のしくみ、腎臓の構造と機能、尿の生成		
19回 20回	内分泌系	ホルモンの定義と作用機序 視床下部、下垂体、副腎、甲状腺等の働き		
21回 22回	生殖器系	女性・男性生殖器の構造と機能		
23回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 医学書院				
備考: 臨床経験と教育経験を踏まえ、人体の構造と機能を教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護形態機能学	講義	1年次前期	1単位／45時間	外部講師
目的: 正常な人体の構造と機能について、生活行動から見るからだの視点で捉え、看護実践に結び付けて理解する 目標: ①人が生物として生きていくのに必要なことは何かを、人の日常生活と関連付けて説明できる ②人の24時間の生活行動を体がどのように遂行しているかを説明できる ③皮膚の外から透視した、内臓の形、位置関係を図示できる				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	何のための生活行動か	生きているとはどういうことか 内部環境の恒常性 生命維持と生活行		
2回 3回	恒常性維持のための物質の流通	流通の媒体—血液 流通路 流通の原動力		
4回 5回	恒常性維持のための調節機構	神経性調節 液性調節 ストレスと恒常性維持		
6回 7回	動く	「動く」と「運動器系」		
8回 9回	食べる	「食べる」と「消化器系」		
10回 11回	息をする	「息をする」と「呼吸器系」		
12回 13回	トイレに行く	「トイレに行く」と「泌尿器系」「消化器系」		
14回 15回	話す・聞く	「話す・聞く」と「発声」「聴覚」		
16回	眠る	「眠る」と「脳波」		
17回	お風呂に入る	「お風呂に入る」と「皮膚」		
18回	子どもを生む	「子どもを産む」と「生殖器」		
19回	外部環境とからだ	人類誕生の環境時と今		
20回 21回 22回	解剖見学	事前学習 解剖見学 まとめ		
23回	終講試験			
使用テキスト: 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会				
備考: 臨床経験と教育経験を踏まえ、看護の視点から生活行動を教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
代謝と栄養	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的: 生命現象を維持するために栄養素の分解・合成過程である代謝の仕組みと生命体を維持するための栄養学の基礎について学び、看護における栄養摂取の促進に活用する 目標: ①人体の構成成分と糖質、脂質、たんぱく質の代謝について説明できる ②栄養状態のアセスメントについて説明できる				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	総論	代謝とは 細胞の構造と機能、栄養素の構造		
2回	糖質代謝	糖質の役割と種類および性質 糖質の消化吸収、グリコーゲンの合成と分解		
3回	脂質代謝	脂質の役割と種類および性質 脂質の消化吸収、脂肪酸・コレステロールの代謝		
4回	蛋白質代謝	蛋白質の役割と種類および性質 蛋白質の消化吸収、アミノ酸の利用と代謝		
5回	核酸代謝	デオキシリボ核酸 リボ核酸		
6回	酵素・ビタミン 水と無機質	酵素の役割と反応、ビタミンの役割と特徴 水と無機質の役割・調整		
7回	食物と栄養	栄養学と看護、食事摂取基準 食品群とその分類、主要食品の栄養学特徴		
8回	エネルギー代謝	食品のエネルギー、体内のエネルギー エネルギー代謝の測定、エネルギー消費		
9回	栄養ケア・マネジメント	栄養状態の評価・判定 栄養アセスメントの方法		
10回	ライフステージと栄養	乳幼児期の栄養と問題 学童・青年期の栄養と問題		
11回	ライフステージと栄養	中年期・老年期の栄養と問題 妊娠期の栄養と問題		
12回	臨床栄養	栄養サポートチーム(NST) 病院食、栄養補給法		
13回	疾患・症状別食事療法	循環器疾患患者、消化器疾患患者、栄養・代謝疾患患者、 腎臓疾患患者の食事療法		
14回	健康づくりと食生活	生活習慣病の予防、食生活改善への施策、食の安全性		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院 系統看護学講座 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院				
備考: 臨床経験と教育経験を踏まえ、代謝と栄養について教授する				

科目の区分	専門基礎分野			第二学科
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
病態生理学	講義	1年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的: 主要な疾患について、疾患概念、病因、病態生理と症候(症状と身体所見) ・検査・治療の原則を関連づけて理解する。その知識に基づいて、病歴と フィジカルアセスメントの結果から臨床推論する能力を身につける。 目標: ①疾病の概念、病因、成り立ちとの経過が説明できる ②各種臓器の主な疾患の病因、病態について説明できる				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	臨床推論とは	病歴・症状・徴候からの病態生理の臨床推論		
2回	循環器疾患	高血圧、虚血性心疾患、心不全、大動脈解離、 閉塞性動脈硬化症、ショック、先天性心疾患、心臓弁膜症		
3回	呼吸器疾患	呼吸不全の病態生理、閉塞性障害と拘束性障害、 気管支喘息、COPD、間質性肺炎、肺がん、肺血栓塞栓症		
4回	血液の生理学と病態学	血液・造血器疾患、血栓傾向と出血傾向(DICなど)		
5回	免疫のしくみと免疫異常 による疾患	アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全		
6回	消化管疾患	上部消化管疾患、下部消化管疾患		
7回	肝・胆・膵疾患	黄疸の病態生理、ウイルス性肝炎、肝硬変、門脈圧亢進 症、肝細胞がん、膵炎、膵がん、胆道系疾患		
8回	内分泌疾患	内分泌系の生理学、下垂体疾患、甲状腺疾患、 副甲状腺疾患、副腎疾患		
9回	代謝疾患	糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症		
10回	腎・尿路系疾患	腎臓の生理学、糸球体腎炎、糖尿病性腎症、腎硬化症、 慢性腎不全、慢性腎臓病(CKD)		
11回	脳・神経疾患	神経疾患の病態生理、脳血管障害、脳炎・髄膜炎 パーキンソン病、神経変性疾患		
12回	認知症	アルツハイマー認知症、レビー小体型認知症、 前頭葉・側頭葉変性症、		
13回	検査	検査所見の見方・考え方		
14回	まとめ	病態生理学の知識の看護への活用		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進「1」 病理学 医学書院 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進「2」 病態生理学 医学書院				
備考: 臨床経験と教育経験を踏まえ、看護師が学習すべき病態生理を教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
臨床薬理	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的: 生体における薬物の吸収や代謝、排泄などに及ぼす影響と、薬物が生体に及ぼす薬理作用について理解し、安全で効果的な薬物療法について学ぶ。 目標: ①薬物や作用する仕組みが説明できる ②主要な薬物治療と薬剤、作用機序が説明できる				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	薬理学総論	薬理学を学ぶにあたって 薬物による病気の治療		
2回	薬理学の基礎知識	薬が作用するしくみ 薬の体内挙動、薬物相互作用		
3回	薬理学の基礎知識	薬物の個人差に影響する因子 薬物使用の有益性と危険性、薬と法律		
4回	抗感染薬	感染症に対する基本事項、抗菌薬、抗ウイルス薬等 感染症の治療における問題点		
5回	抗アレルギー薬 抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬 関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬		
6回	呼吸器・消化器・ 生殖器系に作用する薬物	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物 生殖器・泌尿器系に作用する薬物		
7回	皮膚科用薬・眼科用薬	皮膚科用薬物 眼科用薬物		
8回	漢方薬	漢方薬の基礎知識 漢方薬各論		
9回	抗がん薬 免疫治療薬	がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論 免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強・予防接種		
10回	末梢での神経活動に作用 する薬物	神経系による情報伝達、自律神経作用薬、交感神経作用薬 副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬		
11回	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経のはたらきと薬物、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬 抗精神病薬、気分障害治療薬、抗てんかん薬等		
12回	循環器系に作用する薬物	降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬 利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬剤		
13回	物質代謝に作用する薬物 救急時に使用される薬物	ホルモンとホルモン拮抗薬、治療薬としてのビタミン 救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物		
14回	消毒薬 輸液製剤・輸血剤	消毒に用いられる薬物 輸液製剤・輸血剤		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進「3」 薬理学 医学書院				
備考: 臨床経験を踏まえ、看護師が学習するべき臨床薬理を教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病と治療 I	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的: 人体の機能系列別に主な疾患の原因、病態、検査、治療について学び、看護対象の病態理解に活用する。(呼吸器系疾患、循環器系疾患、歯・口腔系疾患) 目標: ①正常な構造と生理機能が理解できる ②代表的な疾患の病態が理解できる ③各疾患について、症状、徴候検査所見、治療、ケアについて理解できる。				
評価方法: 筆記試験 100%				
回数	授業内容	内容		
1回	呼吸器系疾患	症状と病態生理		
2回		検査と治療		
3回		疾患の理解: かぜと急性気管支炎、インフルエンザ、肺炎、間質性肺炎、気管支喘息、気管支拡張症		
4回		疾患の理解: 肺血栓塞栓症、呼吸不全、肺腫瘍、過換気症候群 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、肺移植、胸部外傷		
5回		呼吸器系障害のある患者の看護 1. 呼吸器機能障害のある患者のアセスメント		
6回		2. 症状が心身・生活に与える影響		
7回	循環器系疾患	症状と病態生理		
8回		症状と病態生理		
9回		検査と治療		
10回		検査と治療		
11回		疾患の理解: 虚血性心疾患、心不全、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋疾患		
12回		疾患の理解: 肺性心、先天性心疾患、動脈系疾患、静脈系疾患リンパ系疾患		
13回	歯・口腔系疾患	歯・口腔の構造と機能、症状と病態生理 疾患の理解: 齲蝕、歯周病、口腔腫瘍、顎関節の疾患等		
14回		検査と治療		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器 [3]循環器 [15]歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 医学書院				
備考: 臨床経験を踏まえ、看護師が学習するべき呼吸器系、循環器系、歯・口腔系についてを教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病と治療Ⅱ	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的: 人体の機能系列別に主な疾患の原因、病態、検査、治療について学び、看護対象の病態理解に活用する。(消化器系疾患、腎泌尿器系疾患、女性生殖器・乳腺系疾患) 目標: ①正常な構造と生理機能が理解できる ②代表的な疾患の病態が理解できる ③各疾患について、症状、徴候検査所見、治療、ケアについて理解できる。				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	消化器系疾患	症状と病態生理		
2回		検査と治療		
3回		検査と治療		
4回		疾患の理解: 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、腸・腹膜の疾患		
5回		疾患の理解: 肝臓・胆嚢の疾患、膵臓の疾患、急性腹症腹部外傷		
6回		疾患理解: 潰瘍性大腸炎、クローン病、イレウス 結腸癌、直腸癌		
7回	腎泌尿器系疾患	腎臓系の主な症状と病態生理		
8回		疾患の理解: 腎不全と慢性腎臓病、ネフローゼ症候群 糸球体腎炎、妊娠高血圧症候群		
9回		泌尿器系の主な症状と病態生理		
10回		疾患の理解: 尿路の通過障害と機能障害、尿路損傷・異物、 尿路結石、尿路・性器の腫瘍、発生・発育の異常		
11回		疾患の理解: 男性不妊症、男性性機能障害、男性生殖器疾患		
12回	女性生殖器・乳腺の疾患	症状とその病態生理		
13回		検査と治療		
14回		疾患の理解: 性分化疾患、臓器別疾患、機能的疾患 感染症		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 成人看護学[5]消化器 [8]腎・泌尿器 [9]女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 医学書院				
備考: 臨床経験を踏まえ、看護師が学習するべき消化器系、腎・泌尿器系、女性生殖器系 についてを教授する				



科目の区分	専門基礎分野			第二学科
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病と治療Ⅲ	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的: 人体の機能系列別に主な疾患の原因、病態、検査、治療について学び、看護対象の病態理解に活用する。(脳神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患)				
目標: ①正常な構造と生理機能が理解できる ②代表的な疾患の病態が理解できる ③各疾患について、症状、徴候検査所見、治療、ケアについて理解できる。				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	脳神経系疾患	症状と病態生理		
2回		検査と治療		
3回		検査と治療		
4回		疾患の理解: 脳疾患、脊髄疾患、末梢神経障害		
5回		疾患の理解: 筋・神経接合部疾患、脱髄・変性疾患、感染症、その他		
6回	運動器系疾患	症状と病態生理		
7回		検査と治療		
8回		検査と治療		
9回		疾患の理解: 骨折、脱臼、その他		
10回		疾患の理解: 先天性疾患、骨関節の炎症性疾患、骨・軟部腫瘍代謝性骨疾患、その他		
11回	感覚器系疾患	眼科疾患		
12回		耳鼻咽喉疾患(耳)		
13回		耳鼻咽喉疾患(鼻咽喉)		
14回		検査と治療		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経 [10]運動器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[13]眼 [14]耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 医学書院				
備考: 臨床経験を踏まえ、看護師が学習するべき脳神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患についてを教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病と治療Ⅳ	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的：人体の機能系列別に主な疾患の原因、病態、検査、治療について学び看護の対象の病態理解に活用する。（内分泌代謝系疾患、血液造血器系疾患、感染症 アレルギー、膠原病、皮膚疾患） 目標：①正常な構造と生理機能が理解できる ②代表的な疾患の病態が理解できる ③各疾患について、症状、徴候検査所見、治療、ケアについて理解できる。				
評価方法：筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	内分泌代謝系疾患	症状と病態生理		
2回		検査と治療		
3回		疾患の理解：内分泌疾患		
4回		疾患の理解：代謝疾患		
5回	血液造血器系疾患	症状と病態生理		
6回		検査と治療		
7回		疾患の理解：赤血球系の異常、白血球系の異常、出血性疾患		
8回		疾患の理解：造血器腫瘍		
9回	感染症	症状と病態生理、検査と治療 疾患の理解		
10回		検査と治療		
11回	皮膚科疾患	症状と病態生理、検査と治療 疾患の理解		
12回		検査と治療		
13回	アレルギー性疾患	症状と病態生理、検査と治療 疾患の理解		
14回	自己免疫疾患	症状と病態生理、検査と治療 疾患の理解		
15回	終講試験			
使用テキスト：系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝 [4]血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症 [12]皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 医学書院				
備考：臨床経験を踏まえ、看護師が学習するべき(内分泌代謝系疾患、血液造血器系疾患、感染症、アレルギー・膠原病、皮膚疾患について)を教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
病態理解の看護学的視点	講義	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的: 人体の構造と機能、病態生理学の知識をもとに、疾病を看護の視点で捉え、傷保持増進、疾病の予防、健康の回復につながる知識にする。				
目標: ①主な疾病の病態理解と治療からの看護の視点が導き出せる。				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	病態生理の基礎知識	疾病の成り立ちに関与する因子 関与する因子を理解し、予防活動の理解に繋げる		
2回	肺の悪性腫瘍	個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム		
3回		事例の身体に起こっていることを理解する。 (病態関連図)		
4回		病態関連図のチーム発表(パワーポイント)		
5回	肝臓の炎症	疾病の成り立ちに関与する因子 関与する因子を理解し、予防活動の理解に繋げる		
6回		個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム		
7回		病態関連図のチーム発表(パワーポイント)		
8回	心臓の循環障害	疾病の成り立ちに関与する因子 関与する因子を理解し、予防活動の理解に繋げる		
9回		個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム		
10回		病態関連図のチーム発表(パワーポイント)		
11回	腎臓の炎症	疾病の成り立ちに関与する因子 関与する因子を理解し、予防活動の理解に繋げる		
12回		個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム		
13回		病態関連図のチーム発表(パワーポイント)		
14回	まとめ	病態理解の看護学的視点とは		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器 [5]消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[3]循環器 [8]腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 医学書院				
備考: 臨床経験を踏まえ、疾病を看護の視点で捉える内容についてを教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
医療と経済	講義	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的: 医療サービスの経済学的特殊性、医療保険の理論と実際、医療・看護サービスの経済的評価、経済発展と国民の健康水準との関連などに理解する。 目標: ①医療と看護の経済現象が理解できる ②看護マネジメントと経済について理解できる				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	医療と経済	医療保険の制度と概要		
2回	日本の医療費	国民医療費の推移、構成		
3回	医療保険の理論	医療保険の考え方と経済		
4回	医療保険の運営と実際	医療保険の歳入・歳出		
5回	医療保険の費用	保険料、自己負担額		
6回	医療経済評価	診療報酬制度の意義と課題		
7回	経済発展と国民の健康水準	国民皆保険制度 諸外国の医療水準		
8回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、看護に必要な医療と経済について教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
公衆衛生	講義	1年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的: 疾病を予防し、人々の健康生活の維持、向上にむけて活用される科学的 手法を理解し、個人・家族・地域・国レベルの健康支援のあり方を学び、 看護活動に活用する。 目標: ①公衆衛生の理念と目的が理解できる ②健康指標となる統計が説明できる ③環境問題と対策が理解できる ④地域・学校・職場における保健活動が理解できる				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	はじめに	公衆衛生の活動領域と活動の特徴 プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション		
2回	公衆衛生の概要	WHO加盟国の特徴、健康と社会環境の変化 疫学的方法による健康の理解—疫学とは		
3回	健康に関連した指標	人口静態、人口動態、生命表、平均寿命、平均余命 死亡、死因統計、死産、周産期死亡、乳児死亡、健康寿命		
4回	生活環境の保全	地球規模の環境と健康		
5回	生活環境の保全	身の回りの環境と健康		
6回	保健活動	地域における保健活動/地域保健 母子保健		
7回	保健活動	学校における保健活動/健康管理 職場における保健活動		
8回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 国民衛生の動向				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、公衆衛生の基本を教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
社会保障制度	講義	1年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的: 社会保障制度の概念と法制度及び社会福祉施策について学び、看護において社会資源を活用できる知識とする。 目標: ①社会保障の基本的仕組みが理解できる ②保健医療福祉の施策が理解できる ③保健医療福祉の実際が理解できる				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	社会保障制度と社会福祉	社会保障制度 社会福祉の法制度		
2回	現代社会の変化と社会保障 社会福祉の動向	現代社会の変化 社会保障・社会福祉の動向		
3回	医療保障	医療保障制度の構造と体系、健康保険と国民健康保険 高齢者医療制度、保険診療のしくみ		
4回	介護保障	介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 介護保険制度の概要、介護保険制度の課題と展望		
5回	所得保障	所得保障制度のしくみ、年金保険制度 社会手当、労働保険制度		
6回	公的扶助	貧困・低所得問題と公的扶助制度、低所得者対策 生活保護制度のしくみ、近年の動向		
7回	高齢者福祉	高齢者の状況、高齢者福祉の施策 老人保健事業		
8回	障害者福祉	障害者の定義と実態、障害者福祉の理念、障害者福祉制度の変遷、新たな法体系の整備、障害者福祉の関連施策		
9回	児童家庭福祉	児童に関わる法と施策、少子化対策と子育て支援 児童虐待、子どもの人権と貧困対策		
10回	社会福祉実践と医療・看護	社会福祉援助とは 個別援助技術(ケースワーク)		
11回	社会福祉実践と医療・看護	集団援助技術(グループワーク) 間接援助技術と関連援助技術		
12回	社会福祉実践と医療・看護	社旗福祉援助の検討課題 連携の重要性		
13回	社会福祉実践と医療・看護	医療ソーシャルワーカーとは 医療・看護・福祉の連携の実際、事例		
14回	社会福祉の歴史と展望	社会福祉の歴史の見方 日本の社旗、福祉の歴史		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 医学書院				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、各看護学にて社会保障制度を教授する				

科目の区分	専門基礎分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
関係法規	講義	2年次後期	1単位／15時間	講師
目的: 看護師に与えられた職責を正しく遂行するために、看護関係法令を理解すると人々の健康生活を守るための看護実践に活用する。				
目標: ①法の理念が理解できる ②医療関係法規の概要が理解できる ③看護活動と関係法規について理解できる				
評価方法: 筆記試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	法の概念	法の概念、衛生法 厚生労働行政のしくみ		
2回	看護法	保健師助産師看護師法 看護師の人材確保の促進に関する法律		
3回	医事法	医療法、医療関係資格法 医療を支える法		
4回	保健衛生法	共通保健法、分野別保健法 感染症に関する法、食品に関する法		
5回	薬務法 環境衛生法	薬事一般に関する法律、麻薬・毒物などの法 営業、環境整備		
6回	社会保険法 福祉法	費用保障、年金、手当 福祉の基盤、児童分野、高齢分野、障害分野		
7回	労働法と社会基盤整備	労働法、社会基盤整備など 環境保全の基本法、公害防止の法、自然保護法		
8回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院				
備考: 臨床経験,教育経験を踏まえ、看護に必要な法律について教授する				

科目の区分		専門分野	第二学科	
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護学概論	講義	1年次前期	1単位／30時間	専任教員
<p>目的:看護の基礎となる基礎的理論を学び、専門職者としての重要な役割・機能、及び看護実践に必要な看護技術の考え方を学ぶ。</p> <p>目標:①看護の概念と変遷を理解する。 ②看護における倫理の重要性と看護技術の特性を理解する。 ③看護の対象および提供のしくみを理解する。 ④現代社会に求められている看護の機能や役割と課題を理解する。</p>				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する。				
回数				
1回	看護の概念		1. 看護とは 2. 看護の変遷 3. 看護の目的・対象・機能 4. 看護の継続性と情報共有 5. 現代における看護	
2回	主な理論家とその理論		1. 主な看護理論の概観 2. 看護実践とその質に必要な条件	
3回				
4回	看護の対象		1. 看護の対象である人間とは 2. ライフサイクルとライフステージ 3. 生活者としての人間	
5回	看護活動を展開するための法的根拠 —看護の役割と専門性—		1. 看護の対象である人間とは 2. ライフサイクルとライフステージ 3. 生活者としての人間	
6回	健康と生活		1. 健康の定義 ヘルスプロモーション 2. 健康の関連因子と医療の変遷 3. 健康の概念と健康の位置づけ	
7回	看護における倫理		1. 倫理的感受性 2. 職業倫理としての看護倫理 3. 対象の権利擁護 4. 看護倫理への取り組み	
8回				
9回				
10回	看護の実践力		1. 看護実践に求められる思考能力 2. 推定能力 3. 臨床判断能力	
11回				
12回				
13回	看護の提供のしくみ		1. サービスとしての看護・提供の場	
14回	社会の求められている看護師		1. カウンセラーとしての看護師 2. 医療安全への取り組み	
15回	筆記試験・まとめ			
使用テキスト:系統看護学講座 基礎看護学【1】看護学概論			医学書院	
備考:臨床経験を踏まえ、看護の基礎や専門職としての役割を教授する				



科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
フィジカルアセスメント	講義	1年次前期	1単位／30時間	専任教員
<p>目的:フィジカルアセスメントの観点からその技法を活用する意義・基礎知識と系統的フィジカルアセスメント方法を学び、看護ケアに活かすための基礎を学ぶ。</p> <p>目標:①看護におけるフィジカルアセスメントの概念と目的、必要性を理解する。  ②フィジカルアセスメントに必要な観察技術・基本的技術について、科学的根拠をふまえて理解する。  ③系統的フィジカルアセスメントを理解する。  ④看護ケアに活かすためのフィジカルアセスメントを理解する。  ⑤対象にとってのフィジカルアセスメントの必要性を理解し、適した方法を選択し実施できる。</p>				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する。				
回数				
1回	ヘルスアセスメントの概要	1. 身体・心理・社会的アセスメント 2. ヘルスアセスメントの実際 全体を概観する		
2回	ヘルスアセスメントの実際	1. 全体を概観する 2. バイタルサイン測定 技術チェック		
3回				
4回	看護におけるフィジカルアセスメント①	1. 検査データの読み方と意味 2. 器官別・系統別アセスメント		
5回	看護におけるフィジカルアセスメント②	皮膚・頭頸部 乳房・腋窩・腹部のアセスメント		
6回	看護におけるフィジカルアセスメント③	呼吸器系のアセスメント		
7回	看護におけるフィジカルアセスメント④	循環器系のアセスメント		
8回	看護におけるフィジカルアセスメント⑤	消化器系のアセスメント		
9回	看護におけるフィジカルアセスメント⑥	神経系のアセスメント		
10回	看護におけるフィジカルアセスメント⑦	感覚器・筋骨格系のアセスメント		
11回	フィジカルイグザミネーション	フィジカルイグザミネーションの実際 一事例を通してー		
12回				
13回	臨床推論と看護ケア	臨床推論と看護ケア 一事例を通してー		
14回				
15回	筆記試験・まとめ			
使用テキスト:系統看護学講座 基礎看護学【1】基礎看護技術Ⅱ				医学書院
備考:臨床経験、教育経験を踏まえ、フィジカルアセスメントの基本を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅰ	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的:日常生活援助に共通する基本となる技術について科学的根拠をふまえて学ぶ。 目標:①看護における効果的なコミュニケーションの技術を習得する。 ②感染予防策について理解し、感染防止のための援助技術を習得する。 ③事故防止策について理解し、安全管理の援助技術を習得する。 ④安楽確保のための援助技術を習得する。 ⑤活動と休息を促すための援助技術を習得する。				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する。				
回数				
1回	コミュニケーション技術	1. コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程		
2回		2. 効果的なコミュニケーション技術 3. コミュニケーション障害への対応		
3回	感染防止の技術	1. 感染防止の基礎知識とスタンダード・プリコーション		
4回		2. 感染予防の技術:手洗い・消毒・滅菌		
5回		3. 感染経路別予防策と感染性廃棄物の取り扱い		
6回		4. 無菌操作		
7回	安全管理の技術	1. 転倒・転落の要因、予防方法		
8回		2. 患者誤認・誤薬・チューブ類の予定外抜去		
9回		3. 薬剤・放射線曝露防止 4. 安全管理(セーフティーマネジメント)		
10回	安楽確保の技術	1. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用		
11回		2. 体位の種類と身体への影響・安楽な姿勢・体位の特徴 体位保持・ポジショニング		
12回	活動・休息の援助技術	1. 活動の意義、活動制限による身体への影響、アセスメントの視点		
13回		2. 基本的援助技術(歩行援助、車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送) 一事例を用いて		
14回		3. 休息・睡眠の意義、睡眠メカニズムと阻害要因、睡眠を促す援助		
15回	筆記試験・まとめ			
使用テキスト:系統看護学講座 基礎看護学【1】基礎看護技術Ⅱ				医学書院
備考:臨床経験、教育経験を踏まえ、根拠を基に日常生活援助技術を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅱ	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的:人間の生活における生活行動の意義について学び、対象にとっての日常生活を整えるための基本的援助について、科学的根拠をふまえて学ぶ。 目標:①環境を整えることが困難な対象のアセスメントをし、環境を整えるための援助技術を習得する。 ②食生活に支障をきたす対象のアセスメントをし、対象に合った食生活の援助技術を習得する。 ③排泄に支障をきたす対象のアセスメントをし、対象に合った排泄を促すための援助技術を習得する。 ④清潔の保持に支障をきたす対象のアセスメントをし、対象に合った援助技術を習得する。				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する。				
回数				
1回	環境調整技術	1. 生活環境を整える意義 —病室環境のアセスメントと調整—		
2回		2. 臥床患者のシーツ交換 —事例を用いて—		
3回	食事の援助技術	1. 食事をすることの意義		
4回		2. 食行動に影響する要因のアセスメント		
5回		3. 非経口的食事摂取の援助 —経管栄養法、経静脈栄養法—		
6回		4. 食事摂取援助の実際 —事例を用いて—		
7回	排泄を促す援助技術	1. 排泄の意義、メカニズム		
8回		2. 排泄行動に影響する要因のアセスメント		
9回		3. 排泄の援助方法とその適応、倫理的配慮		
10回		4. 排泄援助の実際(床上排泄、おむつ交換) —事例を用いて—		
11回	清潔・衣生活援助技術	1. 身体の清潔とその意義、清潔・衣生活に関するアセスメントの視点、倫理的配慮		
12回		2. 入浴・シャワー浴の全身への影響		
13回		3. 衣生活援助の方法 清潔援助の実際(身体各部の清拭) —事例を用いて—		
14回				
15回	筆記試験・まとめ			
使用テキスト:系統看護学講座 基礎看護学【1】基礎看護技術Ⅱ				医学書院
備考:臨床経験、教育経験を踏まえ、根拠を基に日常生活援助技術を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅲ	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
<p>目的:対象の回復を促す技術として、基本的な診療時の援助技術である診察・検査・処置の援助や与薬の知識と技術、一次救急救命処置、医療機器の原理と使用方法について、科学的根拠をふまえて学ぶ。</p> <p>目標:①対象の回復に向けて、診断・治療の意義・方法を理解し、診断過程に伴う技術(診察・検査・処置)を習得する。  ②対象の回復に向けて、診断・治療の意義・方法を理解し、薬物療法と各種与薬方法について習得する。  ③対象の回復に向けて、診断・治療の意義・方法について理解する。  ④対象の回復に向けて、医療機器の原理と使用方法を習得する。  ⑤対象の回復に向けて、一次救急救命処置の方法を習得する。</p>				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する。				
回数				
1回	呼吸、循環、体温調整	1. 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法、排痰ケア(吸引)、適応と方法 ー事例とシミュレーターの活用ー		
2回		2. 酸素療法①酸素療法の原則と合併症②酸素ボンベ ③酸素流量計④カニューレ・マスクの種類		
3回		3. 血圧・血流を保持する姿勢 4. 体温調節のための方法 ①温電法 ②冷電法		
4回	与薬	1. 与薬における看護師の役割		
5回		2. 与薬の基礎知識と与薬方法		
6回		3. 与薬時のアセスメント 4. 化学療法 5. 輸血管理 6. 与薬の実際(各種注射法、輸血管理) ー事例とシミュレーターの活用ー		
7回	生体機能管理	1. 身体侵襲を伴う検査・治療(採血、穿刺、洗浄など)		
8回		2. 生体機能のモニタリング(画像診断、心電図、脳波、呼吸機能検査など)		
9回		3. 医療機器の原理と実際(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器など)の操作・管理)		
10回		4. 創傷管理		
11回		ー事例とシミュレーターの活用ー		
12回				
13回				
14回	救急救命の基礎知識と実際	一次救急救命処置の実際 BLS研修		
15回	筆記試験・まとめ			
使用テキスト:系統看護学講座 基礎看護学【1】基礎看護技術Ⅱ				医学書院
備考:臨床経験、教育経験を踏まえ、根拠を基に対象の回復を促す技術を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
看護過程	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
<p>目的:看護を科学的に実践するための思考過程について学び、看護の視点で対象の健康問題を解決する方法を習得する。加えて、その時々々の健康状態の変化に気づき、解釈、対処、省察する臨床判断の考え方を習得する。</p> <p>目標:①看護実践するための重要な思考方法(クリティカルシンキングやリフレクションなど)を理解する。  ②看護過程の意義と基礎的理論を理解する。  ③NANDA-I分類法と主な看護診断概念を理解する。  ④事例の情報収集ができ、関連図を描くことで、情報の整理ができる。  ⑤事例の看護計画立案の方法が理解できる。(アセスメント・推定問題)  ⑥事例の看護計画立案の方法が理解できる。  ⑦事例の看護計画の実施・評価の考え方が理解できる。  ⑧看護記録の意義、種類が理解できる。</p>				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する。				
回数				
1回	看護過程とは		1. 看護過程の意義、看護過程の基礎理論 2. 看護過程の5つの構成要素	
2回	看護過程展開の各段階 考え方と記録のルール		1. アセスメント ー現状・原因・なりゆきー 2. 看護問題の明確化	
3回			3. 看護診断とは NANDA-Iと主な看護診断	
4回			4. 看護計画ー長期目標、短期目標、OP・TP・EP	
5回			5. 実施、評価 6. SOAP、サマリー	
6回	紙上事例を用いて看護過程展開		1. アセスメント	
7回			2. 看護問題の明確化・看護診断	
8回			3. 看護計画	
9回			4. 実施・評価	
10回			5. 看護サマリー	
11回	臨床判断		1. 臨床判断の意義とプロセス	
12回			2. 場面提示と演習①	
13回			3. 場面提示と演習②	
14回			4. リフレクション	
15回	筆記試験・まとめ			
使用テキスト:系統看護学講座 基礎看護学【1】基礎看護技術Ⅱ		医学書院		
NANDA-I看護診断 2021-2023 医学書院		情報収集・アセスメント Gakken		
備考:臨床経験、教育経験を踏まえ、看護を科学的に思考する過程を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
地域と暮らし	講義	1年次前期	1単位／15時間	専任教員
<p>目的：地域や地域で生活する人々から、地域を査定する能力を養い、地域の健康と生活・健康課題を明確にし、地域の役割を学習する。</p> <p>目標：① 地域や地域で生活する人々を知り、生活の場として捉える。</p> <p>② 地域をシステム理論で考察し、地域の活動を学ぶ。</p> <p>③ 各ライフステージにある人々の暮らしから地域診断し、健康課題を明確にする。</p> <p>④ 健康課題から、地域の役割を考察する。</p>				
評価方法：筆記試験(50%)、レポート課題、授業への参加度(50%)				
回数	授業内容	内容		
1回	地域看護とは	地域看護の対象と目的 「暮らす」ということを理解する 「暮らし」が人々の健康に与える影響、健康が「暮らし」に与える影響		
2回	地域をシステム理論で理解する 地域での活動を理解する	「暮らし」の基盤としての「地域」をシステム理論で理解する 「地域」が人々の「暮らし」に与える影響 ヘルスプロモーション コミュニティーナースの活動と役割		
3回	自分が居住する地域の人々の暮らしを理解する	自分が居住する地域のアセスメントする 小児期、成人期、老年期の各ライフステージにある人々の暮らしから、考察する 健康課題を明確にし、今後起こりうる課題についてを予測する。		
4回				
5回	健康課題から、地域の役割を考察する	健康である人もそうでない人も、よりよく地域で暮らしていくために必要なこと 地域での取り組みはどのようなものがあるのか、他にどのような取り組みが必要なのかを考察する		
6回		発表・討議		
7回				
8回	まとめ、筆記試験			
使用テキスト：系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護論の基礎 医学書院				
備考：臨床経験、教育経験を踏まえて地域の人々の暮らしを教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
家族看護	講義	1年次前期	1単位／15時間	専任教員
目的:対象を取り巻く家族をアセスメントし、各領域において、家族を単位とした看護活動を学習する。 目標:①家族を単位としたアセスメント方法を理解する。 ②家族看護における看護師の役割を理解する。 ③各領域においての家族の役割を理解し、支援につなげるための思考過程を学ぶ。				
評価方法:筆記試験(50%)、レポート課題(50%)				
回数	授業内容	内容		
1回	家族看護とは	家族看護の定義 家族看護の対象と目的		
2回	家族看護の対象理解	家族とは、家族構成、家族機能、現代の家族とその課題		
3回	家族看護を支える理論と介入法	家族を理解するための理論 家族の変化を理解するための理論 家族に変化をもたらすための介入		
4回	家族看護の展開方法	家族看護過程とは 家族看護の実践 様々な家族アセスメントモデル		
5回	事例に基づく家族看護学の実践	慢性の小児患者の家族看護		
6回	事例に基づく家族看護学の実践	終末期患者の家族看護		
7回	事例に基づく家族看護学の実践	精神疾患患者の家族看護		
8回	まとめ、筆記試験			
使用テキスト:系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護論の基礎 医学書院 系統看護学講座 家族看護学				
備考:臨床経験、教育経験を踏まえて各期における家族看護を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
地域・在宅看護概論	講義	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的：在宅看護の歴史や社会的な背景を踏まえ、在宅看護の概念や目的と特徴、在宅看護の役割を理解する。 目標：①在宅看護の歴史的背景をふまえ、在宅看護の概念や目的を理解する。 ②在宅看護の対象や活動の場、看護活動を理解する。 ③在宅療養を支える、社会資源の活用必要性を理解する。 ④訪問看護の機能と役割を理解する。				
評価方法：筆記試験(60%)、レポート課題(40%)				
回数	授業内容	内容		
1回	在宅看護の概念	在宅看護の変遷と社会背景 地域ケアシステム		
2回	在宅療養の支援	自己決定支援(ACP)について		
3回	訪問看護の対象や活動の場	在宅療養者の特徴		
4回		在宅看護の考え方 訪問看護における看護師の倫理、権利保障について		
5回	訪問看護の目的・役割	訪問看護の実際を知り、役割を考察する		
6回	在宅看護に関わる法令と制度	介護保険制度		
7回		訪問看護の人員体制や業務 訪問看護における保険制度		
8回	ケアマネジメントと社会資源の 実際	ケアマネジメントの定義 社会資源の活用		
9回		事例をもとに考察する		
10回	多職種連携	在宅で関わるチームとは ケアマネージャーの役割		
11回		多職種連携 サービス担当者会議の実際(ロールプレイング)		
12回	在宅における看護師の役割を 考える	ジグソー学習 個人ワーク、エキスパート活動		
13回		ジグソー活動 資料作成、発表準備		
14回		クロストーク		
15回	まとめ、筆記試験			
使用テキスト：系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護論の基礎 医学書院 系統看護学講座 家族看護学				
備考：臨床経験、教育経験を踏まえて地域・在宅で暮らす人々の看護の概要を教授する				



科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
地域・在宅看護方法論Ⅰ	講義	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的：在宅で療養する対象に対し、アセスメントをもとに在宅看護技術を修得する。 目標：①在宅における、フィジカルアセスメントを理解する。 ②在宅で必要とされる看護技術（日常生活援助と医療処置）を修得する。 ③在宅療養者の病期に応じた看護を理解する。（急性期・回復期・慢性期） ④在宅療養者への看取りの看護やグリーフケアを学ぶ。 ⑤医療処置が必要な療養者への、災害時の体制や対応を学ぶ。				
評価方法：筆記試験（60％）、レポート課題（40％）				
回数	授業内容	内容		
1回	在宅における看護援助の考え方	在宅における看護援助の考え方 在宅におけるコミュニケーション技術・訪問マナー		
2回	在宅における援助技術と医療ケア 呼吸器に関する在宅看護技術	呼吸障害のある療養者への看護 HOT・HMVを使用している療養者への看護		
3回	在宅における援助技術と医療ケア 食事・嚥下に関する在宅看護技術	嚥下障害のある療養者への看護 在宅経管栄養・在宅中心静脈栄養を利用している療養者への看護		
4回	在宅における援助技術と医療ケア 排泄に関する在宅看護技術	排泄障害のある療養者への看護 尿道留置カテーテル使用している療養者への援助 ストーマ造設している療養者への援助		
5回	在宅における援助技術と医療ケア 清潔に関する在宅看護技術	在宅での清潔援助の特徴 療養者に合わせた清潔援助とは		
6回		清潔に関する在宅看護技術		
7回		在宅における洗髪援助の実際（演習）		
8回	在宅における援助技術と医療ケア 移動・移乗に関する在宅看護技術	移動動作に障害のある療養者への看護		
9回		障がいを抱えながら生活する療養者への援助 福祉用具の実際		
10回	在宅におけるリスクマネジメント	在宅におけるリスクマネジメント 在宅におけるリスクマネジメントの考え方		
11回		在宅におけるリスクマネジメント 事例から学ぶ		
12回	在宅療養者の病期に応じた看護	急性期・回復期・慢性期にある療養者		
13回	終末期における在宅看護	在宅療養者への看取りの看護とグリーフケア		
14回	在宅における災害看護	災害時にむけた地域での取り組み 医療処置が必要な療養者への看護		
15回	まとめ、筆記試験			
使用テキスト：系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護論の基礎 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護論の実際 医学書院 系統看護学講座 家族看護学				
備考：臨床経験、教育経験を踏まえて地域・在宅で暮らす人々に活用できる技術を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
地域・在宅看護方法論Ⅱ	講義	2年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的：NANDA-Iをもとに看護展開し、看護につなげる思考過程と、必要な援助方法を学習する。 目標：①事例に対し、NANDA-Iをもとに看護過程を展開する。 ②事例での対象が在宅療養するためのケアシステムや社会資源の活用方法を理解する。 ③既習科目を踏まえ、療養者の個別に応じた、看護計画を立案する。 ④計画をもとに演習し、計画の評価考察ができる。				
評価方法：筆記試験(50%)、看護過程課題(50%)				
回数	授業内容	内容		
1回	在宅における看護過程の考え方	在宅看護における看護過程の考え方 NANDA-Iのアセスメントの方法、計画立案の方法		
2回	在宅看護における看護過程の展開 (事例Ⅰ)	事例Ⅰ：脳梗塞 アセスメント・看護問題の明確化		
3回		事例Ⅰ：脳梗塞 看護計画立案		
4回		事例Ⅰ：脳梗塞 考え方の共有		
5回		事例Ⅱ：新生児重症仮死or認知症高齢者 アセスメント・看護問題の明確化		
6回	在宅看護における看護過程の展開 (事例Ⅱ)	事例Ⅱ：新生児重症仮死or認知症高齢者 看護計画立案		
7回		事例Ⅱ：新生児重症仮死 考え方の共有		
8回		事例Ⅱ：認知症高齢者 考え方の共有		
9回	学びの共有	事例Ⅱ：新生児重症仮死 看護問題、看護計画をグループで共有し、作成		
10回		事例Ⅱ：認知症高齢者について 看護問題、看護計画をグループで共有し、作成		
11回	訪問看護計画の作成	訪問看護計画の作成 (認知症高齢者への援助)		
12回	訪問看護演習	訪問看護演習(シミュレーション演習)		
13回		記録		
14回	学びの共有	訪問看護での観察の視点 臨床判断能力を生かした看護援助の実際		
15回	まとめ・筆記試験			
使用テキスト：系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護論の基礎 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護論の実践 医学書院 系統看護学講座 家族看護学				
備考：臨床経験、教育経験を踏まえて地域・在宅で暮らす人々に活用できる技術を教授する				

科目の区分	専門分野 第二学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学概論	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
<p>目的:成人期にある対象の特徴と健康問題及び健康レベルに応じた看護の特徴と方法について理解する。また健康生活を育む健康行動と健康生活を支援する環境・ヘルスプロモーションに焦点を当てた看護を学ぶ。</p> <p>目標:①成人期にある対象の特徴と発達課題が理解できる。  ②成人期にある対象の健康問題の特徴が理解できる。  ③健康レベルに応じた看護が理解できる。  ④ヘルスプロモーション施策の動向と対策が理解できる。  ⑤成人期にある対象を看護するにあたり活用できる理論・モデルを理解する。</p>				
評価方法:筆記試験、提出物				
回数	授業内容	内容		
1回	成人期にある人の理解 成長発達の特徴	成人看護学という視座の特徴 成長発達の特徴、発達課題		
2回	身体機能の特徴と看護	身体機能の安定性と変化,身体機能の変化を分析する視点 身体機能の変化に着目した看護		
3回	成人の生活を理解する 視点と方法	生活とは何か、成人の生活の理解 成人の生活のアセスメント		
4回	健康観の多様性と看護 ヘルスプロモーションと看護	主要な健康観、個人の健康観を理解する方法 ヘルスプロモーションと看護		
5回	学習の特徴と看護 エンパワメント・アプローチ	おとなの学びの特徴、成人教育学の概念 エンパワメントモデル、エンパワメント・アプローチのプロセス		
6回	生活習慣に関連する健康障害	生活習慣に関連する健康課題 生活習慣の是正		
7回	ワーク・ライフ・バランスと 健康障害	ワーク・ライフ・バランスと健康障害の関連,職業と健康障害 生活ストレスと健康障害、身体活動と健康障害		
8回	慢性病との共存を支える看護	慢性疾患患者の理解 慢性病との共存を支える看護の実践		
9回	障害がある人の生活と リハビリテーション	障害がある人とリハビリテーション 障害がある人とその生活を支援する看護		
10回	人生の最期のときを支える看護	終末期医療の現状と概念,人生最期のときを過ごしている人の理解、人生最期のときを支える看護		
11回	成人への看護に有用な概念	病みの軌跡という考え方 病みの軌跡の看護への適応		
12回	成人への看護に有用な概念	セルフケアとは、オレムの看護理論,セルフケアと成人看護 ストレスとは、ストレス・コーピングの主要概念		
13回	成人への看護に有用な概念	危機とは、危機介入、アギュララ・フィンの危機モデル 適応とは、ロイ適応看護モデルの概念と成人看護		
14回	成人への看護に有用な概念	自己効力とは、バンデューラの自己効力理論 ヘルスプロモーションとは、ヘルスプロモーションの方法		
15回	まとめ テスト			
使用テキスト:医学書院系統看護学講座 成人看護学総論				
備考:臨床経験、教員経験を踏まえて成人期の看護の基本を教授する				

科目名の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学方法論 I	講義・演習	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
<p>目的: 成人期にある人が、突然の病気や身体に急激な侵襲を与える治療を行った時の、異常の早期発見・回復促進・心理的社会的危機の回避や日常生活行動の支援を学ぶ。</p> <p>目標: ①身体侵襲・検査・手術・薬物療法を受ける患者の生命維持、合併症予防に必要な看護について理解できる。 ②周手術期にある患者の看護が理解できる。</p>				
評価方法: 筆記試験、提出物、授業態度				
回数	授業内容	内容		
1回	周手術期にある患者の看護	周手術期にある患者の特徴 術前・術中の看護(生命維持のためのケア)		
2回		術後の看護		
3回		内視鏡手術の看護 クリティカルパスの使用		
4回		大腸切除、人口肛門造設患者の看護		
5回		胃切除術を受ける患者の看護		
6回	周手術期にある患者の看護過程の展開	「胃切除術を受ける患者の看護」 事例紹介・術後の共同問題		
7回		情報の分析		
8回		情報の分析 情報の分析の発表		
9回		関連図・統合		
10回		関連図・統合の発表		
11回		問題リスト・看護計画立案		
12回		問題リスト・看護計画立案発表		
13回		術前・術後看護の実際		
14回		術前・術後看護の実際		
15回	単位認定試験			
<p>使用テキスト: NANDA-I 看護診断、情報収集・アセスメント 医学書院            系統別看護学講座 専門分野(成人) 消化器 成人看護学総論 医学書院            系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論 医学書院</p>				
<p>備考:            臨床経験、教育経験を踏まえ、成人期の主な疾患の看護や看護を提供するために必要な看護過程を教授</p>				

科目名の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅱ	講義・演習	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的:成人期に疾病をもった患者がいかなる状況におかれているかを知り、疾病の回復促進・ 傷害受容過程への支援・生活の再構築への看護の役割を学ぶ。また、がん治療、苦痛 を和らげる緩和ケア、人生の最後を迎える患者と家族の状況に応じた看護を学ぶ。 目標:①障害受容過程への支援とその人らしい生活の再構築を支援する看護を理解できる。 ②生涯にわたりセルフマネジメントが必要な疾病をもつ患者と家族の看護を理解できる。 ③がんの治療、がんに伴う苦痛を和らげる緩和ケアについて理解できる。 ④人生の最後を迎える患者と家族の状況に応じた看護を理解できる。				
評価方法:筆記試験、提出物、授業態度				
回数	授業内容	内容		
1回		「クモ膜下出血患者の看護」		
2回	障害受容過程への支援とその人らしい生活の再構築を支援する看護	遅発性脳梗塞		
3回		・右上下肢麻痺・運動性失語 ・リハビリテーションと看護		
4回	生涯にわたりセルフマネジメントが必要な疾病をもつ患者と家族の看護	「糖尿病・糖尿病性腎症患者の看護」		
5回		・症状コントロールのための支援		
6回		・自己管理に向けての支援 ・家族支援		
7回		・血糖コントロール ・インスリン自己注射 ・透析療法と看護		
8回	がんの治療、がんに伴う苦痛を和らげる緩和ケアについて	「大腸がん患者の看護」		
9回		・ストーマ造設に伴う看護		
10回		・化学療法 ・放射線療法		
11回		・がん治療の場と看護		
12回		・緩和ケアとは ・がん患者に生じやすい症状と看護		
13回	人生の最後を迎える患者と家族の状況に応じた看護	・緩和ケアにおける看護介入		
14回		・家族への援助 ・生と死を考える		
15回	単位認定試験			
使用テキスト:系統別看護学講座 成人看護学概論 脳・神経 内分泌・代謝 消化器 医学書院 系統別看護学講座 別巻 臨床外科総論 がん看護 リハビリテーション看護 緩和ケア 医学書院				
備考:臨床経験、教育経験を踏まえ、成人期の生活を支える日常生活援助技術を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学概論	講義	1年次前期	1単位／30時間	専任教員
<p>目的: 加齢に伴う機能変化の一面を持ちながらも、長い人生の中で素晴らしい体験とそこから生まれる様々な判断をもとに、成長発達を続けている可能性のある存在として対象を理解できるように学習する。また、健康を維持するための社会の動きの中で保健医療 福祉の動向を理解し三者の連携の在り方を学ぶ。</p> <p>目標: ①老年期のライフサイクル・生活の視点・人口学的指標・健康指標から理解できる  ②老年期を生きる人々の特徴が理解できる  ③加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化が理解できる  ④老年期を生きる人々の健康が理解できる  ⑤高齢者の保健・医療・福祉の動向と諸問題が理解できる  ⑥高齢者の保健・医療・福祉施策と課題が理解できる</p>				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	老いるということ 老いを生きるということ	加齢と老化、身体的側面の変化、心理的变化 高齢者の定義、発達と成熟		
2回	高齢者体験			
3回	超高齢社会と社会保障	超高齢社会の現状 高齢者と家族 高齢者の死亡 高齢者の暮らし		
4回	高齢者にとっての健康	地域の高齢者との語らい 高齢者のライフストーリーを聞く 人生をいかに充実させるか、健康観、老年観を考える		
5回	超高齢社会と社会保障	高齢者にかかわる保健医療福祉のシステム構築		
6回	地域の高齢者を知る	地域にでて高齢者の健康維持活動を知る		
7回	地域の高齢者を知る	グループメンバーと健康維持活動の共有		
8回	地域の高齢者を知る	地域の高齢者の健康維持のための健康教室計画		
9回	地域の高齢者を知る	地域の高齢者の健康維持のための健康教室発表		
10回	超高齢社会と社会保障	高齢者の権利擁護 高齢者に対するスティグマと差別 2) 高齢者虐待		
11回	高齢者のヘルスアセスメント 個人ワーク	身体の高齢変化とアセスメント		
12回	高齢者のヘルスアセスメント グループワーク	身体の高齢変化とアセスメント ・皮膚との付属器 ・視聴覚とそのほかの感覚 ・循環系		
13回	高齢者のヘルスアセスメント グループワーク	身体の高齢変化とアセスメント ・呼吸器系 ・消化器系 ・ホルモンの分泌		
14回	高齢者のヘルスアセスメント 発表	身体の高齢変化とアセスメント ・泌尿生殖器 ・運動系		
15回	終講試験: 筆記試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 老年看護学(医学書院)				
備考: 臨床経験, 教育経験を踏まえ、高齢者を看護する基本を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学方法論Ⅰ	講義	1年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的: 老年看護の基本的考え方と老年看護における理論・概念の活用、高齢者の生活機能を整える看護、技術について学ぶ。治療を必要とする高齢者の看護、終末期の看護について学ぶ。 目的: ①老年看護の目標、機能と役割、老年看護における理論・概論が理解できる ②高齢者の生活を整える看護が理解できる ③高齢者のよりよい生活を支援する日常生活援助技術が修得できる ④薬物療法を受ける高齢者の看護が理解できる ⑤「生ききる」ことを支えるケアが理解できる ⑥生活・療養の場における看護が理解できる				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	老年看護のなりたち	老年看護の役割 老年看護における理論・概念の活用		
2回	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活を支える基本的活動 基本的なADL評価指標 認知機能評価		
3回	高齢者の生活機能を整える看護	歩行と移動(転倒予防) 高齢者の歩行の特徴 疾患と歩行障害の症状と援助		
4回	高齢者の生活機能を整える看護	歩行と移動(転倒予防) 高齢者の転倒の影響 転倒の要因と援助		
5回	高齢者の生活機能を整える看護	コミュニケーション 高齢者の特徴、アセスメントの視点と援助(点字・手話)		
6回	高齢者の生活機能を整える看護	食生活 高齢者の特徴、アセスメントの視点と援助		
7回	高齢者の生活機能を整える看護	清潔 高齢者の特徴、アセスメントの視点と援助		
8回	高齢者の生活機能を整える看護	生活リズム 高齢者の特徴、アセスメントの視点と援助		
9回	高齢者の生活機能を整える看護	排泄 高齢者の特徴、アセスメントの視点と援助		
10回	高齢者の生活機能を整える看護 演習	ハンドセラピー実施・リフレクション		
11回	高齢者の生活機能を整える看護 演習	ノルディックウォーキング実施・リフレクション		
12回	治療を必要とする高齢者の看護	薬物療法を受ける高齢者の看護 薬物動態、副反応		
13回	エンドオブライフケア	エンドオブライフケアとは「生ききる」ことを支えるケア 終末期に求められる援助、家族への支援		
14回	エンドオブライフケア	施設での看取り援助 事例検討		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 老年看護学(医学書院)				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、高齢者の生活を支える日常生活援助技術を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
老年看護学方法論Ⅱ	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的: 主な症状と疾患及び障害とその看護、介護する家族への看護、高齢者の看護過程を学ぶ 目標: ①疾患や機能障害を持つ高齢者の看護が理解できる ②介護する家族への看護が理解できる ③高齢者のよりよい生活を支援する日常生活援助技術が修得できる ④高齢者の特徴を踏まえた看護過程ができる				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	健康逸脱からの回復を促す看護	大腿骨頸部骨折患者の看護 病態生理、原因、症状、アセスメントの視点、看護		
2回	健康逸脱からの回復を促す看護	誤嚥性肺炎患者の看護 病態生理、原因、症状、アセスメントの視点、看護		
3回	健康逸脱からの回復を促す看護	褥瘡・スキンテア患者の看護 病態生理、原因、症状、アセスメントの視点、看護		
4回	健康逸脱からの回復を促す看護	認知症患者の看護 病態生理、原因、症状、アセスメントの視点、看護		
5回	健康逸脱からの回復を促す看護	高次機能障害患者の看護 病態生理、原因、症状、アセスメントの視点、看護		
6回	健康逸脱からの回復を促す看護	高齢者を介護する家族への看護		
7回	健康逸脱からの回復を促す看護 演習	点滴施行中の高齢者の寝衣交換		
8回	施設看護の実際 (介護老人福祉施設)	設置基準、利用の特徴、施設看護の特徴		
9回	高齢者の看護過程の展開	事例発表(3例)、各領域の情報整理、分析・解釈 個人ワーク		
10回	高齢者の看護過程の展開	事例発表(3例)、各領域の情報整理、分析・解釈 個人ワーク		
11回	高齢者の看護過程の展開	関連図、仮診断からの統合 個人ワーク		
12回	高齢者の看護過程の展開	看護診断(長期目標、短期目標)看護計画 個人ワーク		
13回	高齢者の看護過程の展開	発表準備		
14回	高齢者の看護過程の展開	発表・リフレクション		
15回	終講試験 筆記試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 老年看護学(医学書院)				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ、老年期の主な疾患の看護や看護を提供するため必要な看護過程を教授する				



科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
小児看護学概論	講義	1年次前期	1単位30時間	専任教員
目的: 子どもの成長・発達と養育環境、健康、家族、看護について学び、小児保健医療福祉の観点から近年の問題を捉え、看護の果たす役割・機能を学修する。 目標: ①小児の成長発達と発達課題を理解する。 ②小児をとり巻く社会状況と動向を理解する。 ③子どものヘルスプロモーションの促進のための看護を理解する。 ④子どもの権利と小児看護における倫理的問題を理解する。 ⑤小児医療と小児看護における看護職の果たす役割を理解する				
評価方法: 終講試験100%				
回数	授業内容	内容		
1回	小児看護の特徴と理念	小児医療・小児看護の変遷 子どものヘルスプロモーションの促進のための看護の役割		
2回	小児看護における倫理	子どもの権利 児童憲章 子どもの権利条約 インフォームド・アセントとアドボカシー		
3回	子どもの成長・発達と養育・看護	成長・発達の原則と影響する要因 成長・発達の原則と影響する要因		
4回	家族アセスメント	親子関係論 アタッチメント 分離不安		
5回	小児の事故防止	諸統計からみた子どもの事故 安全教育と環境づくり		
6回	小児の遊び、学習への支援	遊びのための環境づくり 学習のための環境づくり		
7回	小児と家族をとりまく社会(1)	母子保健法 予防接種 子ども・子育て支援政策		
8回	小児と家族をとりまく社会(2)	医療費支援 学校保健安全法 児童福祉法		
9回	ヘルスプロモーション 促進のための子どもの看護	新生児期		
10回	ヘルスプロモーション 促進のための子どもの看護	乳児期		
11回	ヘルスプロモーション 促進のための子どもの看護	幼児期・学童期		
12回	ヘルスプロモーション 促進のための子どもの看護	思春期・青年期		
13回	自分の住む地域の子育て	支援政策の現状と課題について		
14回	自分の住む地域の子育て	支援政策の現状と課題について		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 小児看護学(医学書院)				
備考: 臨床経験教育経験を踏まえ、小児期に対する基本的な考え方を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
小児看護学方法論Ⅰ	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
<p>目的:小児各期の特徴をふまえたヘルスアセスメントと必要な技術や各期に起こりやすい事故・救急処置について学び、各病期にある子どもとその家族に必要な看護の方法を学修する。</p> <p>目標:①小児各期の特徴をふまえたヘルスアセスメントの方法を習得する。  ②小児の成長・発達をふまえた基本的な援助技術を習得する。  ③小児各期に起こりやすい事故と救急処置を理解する。  ④疾患・障害をもつ子どもと家族に必要な基本を理解し、看護につなげる。</p>				
評価方法:終講試験90%、課題レポート10%				
回数	授業内容	内容		
1回	子どもの成長発達と養育・看護	ヘルスアセスメント 新生児・乳児		
2回	子どもの成長発達と養育・看護	ヘルスアセスメント 幼児		
3回	子どもの成長発達と養育・看護	ヘルスアセスメント 学童		
4回	子どもの成長発達と養育・看護	ヘルスアセスメント 思春期・青年期		
5回	外来における小児と家族の看護	トリアージ 虐待への気づき 健康診査・育児相談		
6回	急性期にある小児と家族の看護	発熱・下痢・嘔吐・呼吸困難・けいれん 生命兆候の危険な状態のアセスメントと看護		
7回	慢性期にある小児と家族の看護	ケース:糖尿病(1型・2型) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴		
8回	終末期にある小児と家族の看護	ケース:小児がん 死に対する子どもの反応 子どもを看取る家族の反応		
9回	災害時の小児と家族の看護	起こりやすい事故における処置 子どもの一次救命処置 ケース:気管内異物・溺水・熱傷		
10回	在宅療養をする小児と家族看護	ケース:重症心身障害児・ダウン症候群		
11回	発達障害のある小児と家族看護	発達障害の種類と定義 ケース:自閉症スペクトラム症		
12回	検査・処置を受ける小児の看護	与薬・輸液・検尿 特殊検査		
13回	検査・処置を受ける小児の看護	プレバレーション シミュレーション、プレゼンテーション		
14回	検査・処置を受ける小児の看護	ディストラクション		
15回	終講試験			
使用テキスト:系統看護学講座 小児看護学(医学書院)				
備考:臨床経験教育経験を踏まえ、小児の各期に対応できる看護技術を教授する				

授業科目名の区分		専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員	
小児看護学方法論Ⅱ	講義	2年次後期	1単位/30時間	外部講師 専任教員	
目的: 事例展開や演習を活用して、看護実践に必要なアセスメント能力や個性をふまえた子どもとその家族に対する看護について学修する。 目標: ①小児各期に起こりやすい主な疾患・症状・治療を理解し、看護につなげる。 ②個性をふまえた小児看護を展開するための基礎を理解する。 ③小児の看護診断過程の基本を理解する ④事例を用いた看護過程の展開の方法を学び、子どもと家族の看護につなげる。					
評価方法: 終講試験50%、看護過程記録50%					
回数	授業内容		内容		
1回	特殊な疾患の病態・検+B13:I20 治療・看護		1) 先天性異常及び神経疾患 先天異常、染色体異常、筋疾患、脳性麻痺、てんかん		
2回	小児の主な疾患看護		肺炎、気管支喘息、感染症(麻疹他、ウイルス感染症)		
3回	小児の主な疾患看護		フォロー四徴症、心室中隔欠損症、川崎病		
4回	小児の主な疾患看護		巨大結腸症 腸重積症		
5回	小児の主な疾患看護		先天性股関節脱臼、二分脊椎		
6回	小児の主な疾患看護		急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群		
7回	小児の主な疾患看護		白血病・紫斑病		
8回	看護過程		事例展開(川崎病・気管支喘息・白血病) 情報収集、アセスメント		
9回	看護過程		情報収集、アセスメント		
10回	看護過程		仮診断、看護問題の明確化		
11回	看護過程		関連図		
12回	看護過程		看護計画(短期目標、長期目標)		
13回	看護過程		発表準備		
14回	看護過程		発表、意見交換		
15回	終講試験				
使用テキスト: 系統看護学講座 小児看護学(医学書院)					
備考: 臨床経験を教育経験踏まえ、小児の主な疾患、看護過程を教授する					

授業科目名の区分		専門分野	第二学科	
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学概論	講義	1年次前期	1単位/30時間	外部講師
<p>目的:母性看護およびリプロダクティブヘルス/ライツの中心概念について、身体的・心理的・社会的・文化的側面から女性の健康問題と看護ニーズに着目し、母性看護の役割と機能・活動の場について学習する</p> <p>目標:①母性看護の変遷、動向を理解し、基盤となる概念について理解できる          ②女性のライフサイクルに焦点を当て、女性及び家族を取り巻く環境について健康問題を関連させて理解できる          ③女性のライフサイクル上の対象の身体機能の変化や、心理・社会的特性について理解できる          ④母性看護の役割、法的責任、生殖技術進歩による生命倫理の新たな構築の視点について理解できる</p>				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	母性看護の基盤となる概念 セクシュアリティ	母性とは セクシュアリティの発達と課題		
2回	リプロダクティブヘルス/ライツ 概念と課題	リプロダクティブヘルス/ライツの中心概念 ヘルスプロモーション		
3回	リプロダクティブヘルスケア	リプロダクティブヘルスに関する法律、施策		
4回	母性看護のあり方と母性看護の 理念	母性看護の概念 母性看護の課題と展望 母性看護における倫理		
5回	母性看護の歴史的変遷と現状	母性看護の変遷 母子保健施策と母性をとりまく環境		
6回	母性看護の対象理解	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 女性のライフサイクルと家族		
7回	女性のライフステージ各期に おける看護	各ライフサイクルの定義・特徴・健康問題・看護		
8回		思春期の健康問題と看護		
9回		成熟期の健康問題と看護		
10回		更年期、老年期の健康問題と看護		
11回	母性看護における看護技術	母性看護における看護技術(情報収集・アセスメント技術) 母性保健と社会資源(支援を要する母性の事例)		
12回	母性の継続看護・地域看護	地域に密着した助産院の役割		
13回		支援を必要とする母性の事例への看護 発表準備		
14回		社会資源まとめ発表・学び共有		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ母性看護学の基礎を教授する				

授業科目名の区分		専門分野	第二学科	
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
母性看護学方法論 I	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的: 正常な妊娠経過、異常時の看護について学習する。また周産期における母性と新生児の健康の保持・増進するための基本的理論と方法を学習する。 目標: ①妊娠・分娩・産褥の機序についての知識を構築し継続したアセスメントの必要性を理解し、必要な看護を考えることができる ②胎児期・新生児期の生理と発育について理解できる ③ハイリスク妊娠・分娩の問題点を理解し、異常時の看護につなげることができる ④妊娠期・分娩期の女性、および胎児・新生児の特性を踏まえた保健指導および看護が理解できる				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	妊娠期におけるアセスメント 看護	妊娠の成立 胎児の発育とその生理 経過に伴う母体の生理的変化		
2回	妊婦と胎児のアセスメント 看護	妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント		
3回	妊婦健診の実際 妊婦体験 演習	腹囲、子宮底長測定、レオポルド触診法、児心音の聴取		
4回		妊婦体験から、心理的・精神的・社会的側面への影響を考える		
5回	妊娠の異常	ハイリスク妊娠 妊娠期の感染症 妊娠疾患		
6回	妊娠の異常に対応するための アセスメント、看護	ハイリスク妊婦および家族に対するアセスメント、看護		
7回	親になるための準備教室 演習	妊婦および家族への保健指導の実際		
8回		親になるための準備教室の体験を通し、妊娠期の心理、社会的特徴を考える		
9回	分娩期におけるアセスメント	分娩の要素、機序 順調な分娩経過のための看護		
10回	分娩の異常	ハイリスク分娩 分娩期の異常とその看護		
11回	プロジェクト学習	ウェルネスの視点で考える対象模擬妊婦の事例考察 個人作業		
12回		プロジェクト発表、リフレクション		
13回		プロジェクト発表、リフレクション		
14回	学びの共有・まとめ	ペリネイタルロスを経験した母親、家族への看護 母性看護学方法論 I 演習内容、学びの総復習		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学各論 医学書院				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ周産期における母性と新生児の健康についてを教授する				

授業科目名の区分		専門分野	第二学科	
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
母性看護学方法論Ⅱ	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的: 周産期にある母子およびその家族の特徴と健康問題を査定し、妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族への看護の方法について学習する 目標: ①産褥期の女性および早期新生児の生理的特徴、日齢に沿った経過が理解できる ②正常な産褥経過から逸脱し異常な状態にある母子に対し、臨床判断能力を活かした看護援助を考えることができる ③問題志向型と、ウェルネス志向型の看護診断の違いを理解し、母性の看護過程について理解できる				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回数	授業内容	内容		
1回	産褥期におけるアセスメント 看護	順調な産褥経過の診断、看護 産褥の異常と看護		
2回	新生児のアセスメント 看護	生理的特徴、順調な胎外生活適応のための看護 新生児の異常と看護		
3回	非妊娠時～妊娠～産褥 継続性のあるアセスメント	ロールプレイング発表準備		
4回	シミュレーション学習	正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦の事例 緊急帝王切開となった妊婦・産婦・褥婦の事例		
5回		ロールプレイング発表		
6回		リフレクション、学びの共有		
7回	看護過程の展開	マタニティ診断、ウェルネス志向型看護診断		
8回		妊娠期・分娩期の看護過程 産褥期の看護過程(褥婦)アセスメント・マタニティ診断		
9回		産褥期の看護過程(新生児)アセスメント・マタニティ診断		
10回		産褥期のアセスメント・関連図・看護診断 学びの共有		
11回		看護計画、サマリー		
12回	新生児の沐浴・抱き方 哺乳瓶による授乳方法子宮復 古状態 演習	沐浴の実際 新生児観察の実際		
13回		子宮底・悪露の観察の実際		
14回	学びの共有・まとめ	母性看護学方法論Ⅱ 演習内容、学びの総復習		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院				
備考: 臨床経験、教育経験を踏まえ周産期における母子及び家族の看護の方法についてを教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学概論	講義	1年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的:精神の健康概念や精神の健康に影響を及ぼす要因、精神医療・看護の歴史と変遷、法制度と行政システム等、精神科看護の基礎知識を理解する。 目標:①精神の健康概念を理解し、精神に健康を及ぼす要因が理解できる。 ②各発達段階における精神的危機を理解することができる。 ③精神科看護を取り巻く法制度の現状と課題について理解できる。 ④精神医療・看護の歴史と変遷が理解できる。				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する。				
回数				
1回	精神の健康概念と精神の健康に影響を及ぼす要因	精神看護とは		
2回		精神の健康とは 精神科看護の目的・意義とその対象 精神の健康に影響を及ぼす因子		
3回	人間の心の働き	心の仕組みと働き(フロイト等)		
4回		防衛反応とは メンタルヘルスの考え方 各種心理検査		
5回	各発達段階における精神的課題	エリクソンの発達課題 各ライフスタイルにおける発達課題		
6回	精神的危機介入とストレス理論	ストレスとは		
7回		ストレスコーピングとは 危機介入と予防的精神保健活動 1)1次予防 2)2次予防 3)3次予防		
8回	対象理解	精神に障害を持つ対象の理解 対象の家族と対象を取り巻く環境 全人的理解とは		
9回	法整備と行政システム	精神保健福祉法・障害者自立支援法 障害者雇用促進法・社会福祉法等		
10回	権利擁護という考え方	人権擁護と入院制度 対象の人権と医療の場の特殊性		
11回		看護師のジレンマ 地域社会との繋がり		
12回		現状と課題		
13回	精神医療・看護の歴史とその変遷	精神障害と宗教との関係		
14回		精神障害の治療と歴史 現在の精神医療の流れ		
15回	筆記試験・まとめ			
使用テキスト:精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院				
参考図書 :国民衛生の動向 (財)厚生統計協会				
備考:臨床経験、教育経験を踏まえて精神看護学に基礎を教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学方法論Ⅰ	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的: 代表的な精神疾患の病態と状態像、各種検査と治療法、精神科看護技術について理解し、他者理解と自己洞察についても学ぶ。  目標: ①代表的な精神疾患の病態と状態像(病期)を学び、その看護について理解できる。 ②精神科における各種検査法や治療法を理解できる。 ③精神看護における治療的コミュニケーション技術と自己洞察を学ぶ。				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する。				
回数				
1回	精神障害の特徴と治療	精神健康の基準		
2回		国際障害分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF) 主な精神疾患		
3回	精神障害の診断と分類	DSMとICDの分類		
4回		統合失調症・気分障害・神経症性障害 パーソナル障害・器質的精神障害 精神作用物質使用による精神・行動の障害等		
5回	精神科における治療	薬物療法		
6回		電気痙攣療法		
7回		精神療法 環境療法・社会療法		
8回	ケアの人間関係	患者・看護師関係 自己洞察		
9回		対象者への接近法		
10回		ロールプレイング プロセスレコード		
11回	回復を助ける	リハビリテーション		
12回		回復を支える様々なプログラム		
13回	入院治療の目的と意味	入院時のアセスメント		
14回		治療的環境をつくる		
15回	筆記試験・まとめ			
使用テキスト: 精神看護の基礎 精神看護学① 精神看護の展開 精神看護学②				医学書院
参考図書 : 看護場面の再構成				日本看護協会出版会
備考: 臨床経験、教員経験を踏まえて精神科特有の代表的疾患について教授する				



科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学方法論Ⅱ	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:精神に障害を持つ対象と、環境(家族を含む)への看護過程の展開を通して学ぶ。 また、安全や緊急事態への対応やメンタルヘルスを含む地域における精神科看護の機能と役割について理解する。 目標:①精神科における緊急事態・安全とは何かを学び、リスクマネジメントについて理解できる。 ②対象を全人的に理解し、個別に応じた適切な看護介入を理解できる。 ③地域社会における精神科看護の機能と役割について理解できる。				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する。				
回数				
1回	安全を守る	リスクマネジメントとの考え方とその方法 緊急事態に対処する 院内を中心とした災害時のケア		
2回				
3回	身体をケアする	精神科における身体のケアとケアの実際 身体に現れる心の痛み 精神科の治療と身体ケア 日常から気をつけておきたい身体合併症		
4回				
5回	サバイバーとしての患者とそのケア	サバイバーとは サバイバーとしての患者とそのケアの実際		
6回	リエゾン精神看護	リエゾン精神看護とは リエゾン精神看護活動について		
7回	看護における感情疲労	感情疲労とは何か 看護における感情疲労と看護師のメンタルヘルス		
8回	地域における精神保健と精神看護	地域における精神保健活動と精神看護 精神障害を持ちながら地域で暮らす人を支える 地域で生活するための原則とは 暮らしを支える社会資源・サービス		
9回				
10回	精神に障害がある対象への看護展開(1) 事例:統合失調症・気分障害	アセスメントの視点・情報整理		
11回				
12回	精神に障害がある対象への看護展開(2)	関連図・統合・看護問題の明確化		
13回	精神に障害がある対象への看護展開(3)	看護計画の立案 看護介入 実施・評価		
14回				
15回	筆記試験・まとめ			
使用テキスト:精神看護の基礎 精神看護学① 精神看護の展開 精神看護学②				医学書院
備考:臨床経験、教育経験を踏まえて安全や緊急事態への対応について教授する				

科目名の区分		専門分野	第二学科	
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
災害看護と国際看護	講義	2年次後期	1単位／30時間	外部講師
<p>目的: 国際社会における保健・医療・福祉の実情を理解し、国際協力について考える。災害医療・看護について理解し、平常時の備えと災害発生各期の健康問題に対処する看護について学ぶ。</p> <p>目標: ①災害看護の特殊性を理解し、災害各期における災害活動、看護の役割が理解できる  ②災害現場における初期対応について演習を通して理解できる  ③災害における生活変化に伴う健康問題と心のケアに必要なことが理解できる  ④国際的な災害救援活動の現状と看護師の役割を国際的な視点で考えることができる</p>				
評価方法:				
回数	授業内容	内容		
1回	国際看護学とは	国際看護学の定義、対象 世界の健康問題の現状		
2回	国際看護学の基礎知識	国際協力、開発、国際救助 国際人権法、国際人道法		
3回	グローバルヘルス	グローバルヘルスとは ミレニアム開発目標		
4回	看護師の国際組織 国際協力のしくみ	国際看護師協会 国連、政府機関、NGO		
5回	災害看護とは	災害看護の歩み 災害医療の基礎知識		
6回	災害看護活動	災害サイクルに応じた看護活動		
7回	トリアージ法	トリアージ法とは トリアージの実際(演習)		
8回				
9回	BLS	BLSとは BLSの実際(演習)		
10回				
11回	救急処置法	救急処置(三角巾、副子の使い方) 救急処置の実際(演習) リフレクション		
12回				
13回	病院防災	病院における防災の実際(病院)		
14回	地域防災	地域における防災の実際(幸手市)		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 看護の統合と実践[3]災害看護・国際看護 医学書院				
備考: 臨床経験を踏まえ、災害看護と国際看護について教授する				

科目の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護管理と医療安全	講義	2年次後期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的: 医療安全に関する基礎的知識を習得するとともに、看護の効率性、経済性について考え、看護マネジメントの視点を学ぶ。 目標: ①看護サービスを提供するための看護管理に基本を理解する ②組織の中の看護師の役割を理解する ③医療システムの中の危険要因について理解できる ④看護業務の範囲と責任について理解できる				
評価方法:				
回数	授業内容	内容		
1回	看護管理とは	看護管理の定義 看護管理の対象と管理過程		
2回	病院における看護組織	病院の目的、理念と組織 看護部門の組織と看護職員の管理		
3回	多職種連携	チーム医療における看護の役割 リーダーシップとメンバーシップ		
4回	看護の質保証	診療報酬制度と看護サービスの評価 継続教育とキャリア開発		
5回	安全管理	看護業務の特性と事故、事故発生時の対応と事故の記録 看護職員の労働安全衛生、電子カルテとセキュリティ		
6回	医療安全とは	医療安全とは、ヒューマンエラー 医療事故と看護事故の分析方法		
7回	診療補助時の事故防止	注射業務における事故防止 事故発生時の対処方法		
8回	診療補助時の事故防止	検査に伴う事故防止 情報伝達と共有・管理		
9回	ハイリスク状況下の事故防止	エラーを誘発する状況(口頭指示、作業中断、多重課題) ポンプ注入の危険要因と事故防止		
10回	療養の世話時の事故防止	チューブ管理の危険要因と事故防止 転倒転落、窒息誤嚥、入浴中の事故防止		
11回	看護師の労働安全上の事故防止	院内感染対策、業務感染の事故防止 抗がん剤の暴露・院内暴力等の事故防止		
12回	医療事故防止演習	KYTトレーニング(危険予知トレーニング)		
13回		・KYTの発展と医療現場での導入 ・KYTの進め方、KYT4ラウンド法 ・KYTの実際		
14回		日常生活援助場面(寝衣交換、食事・排泄・入浴介助等) 診療補助場面(吸引、注射、ポンプ管理、創傷処置等)		
15回	終講試験			
使用テキスト: 系統看護学講座 看護の統合と実践[1]看護管理 医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院				
備考: 臨床経験を踏まえ、看護管理と医療安全について教授する				

科目名の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護研究	講義	2年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的: 看護研究の意義と方法を理解し、看護研究のプロセスに沿って実践した看護を振り返りケーススタディをまとめ発表することで、看護研究の基礎を学ぶ。				
目標: ①看護研究の意義と方法を理解できる ②実践した看護を振り返りケース・スタディとしてまとめることができる				
評価方法:				
回数	授業内容	内容		
1回	看護研究とは	研究の意義・必要性・種類		
2回	看護研究のプロセス	研究テーマの決定、文献検索、研究計画書 倫理的配慮、看護研究の進め方		
3回	文献検索	文献検索の実際		
4回	ケーススタディ	研究計画をもとに看護研究を進め、論文作成する。		
5回				
6回				
7回				
8回				
9回	看護研究発表会準備	抄録、発表原稿、パワーポイント、講評原稿の作成		
10回				
11回	看護研究発表会リハーサル	役割分担(総合司会、座長、書記、タイムキーパー、PC係)、役割内容の確認、発表会リハーサル		
12回	看護研究発表会	看護研究発表(全員)		
13回				
14回				
15回	評価: 課題提出			
使用テキスト: 系統看護学講座 看護研究 医学書院				
備考: 臨床経験を踏まえ、看護研究について教授する				

科目名の区分	専門分野	第二学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護の統合技術とリフレクション	講義	2年次後期	1単位／15時間	専任教員
目的: 臨床に近い状況下で多重課題・複数患者への看護を通して、統合的な判断や対応する能力を養う。 目標: ①複数患者に対する援助の優先順位を判断した行動計画が立案できる ②チームメンバー、多職種連携に応じた看護が実践できる ③診療補助技術と日常生活援助技術を組み合わせ、適切に援助できる ④看護実践技術を振り返り、対象・看護業務・自己の臨床実践能力等を分析・考察できる				
評価方法:				
回数	授業内容	内容		
1回	多重課題トレーニング1	複数受け持ち、優先順位の判断、看護師の行動		
2回	多重課題トレーニング2	日勤リーダー業務、優先順位の判断、多職種連携		
3回	多重課題トレーニング3	夜間急変時の対応・判断、チーム連携		
4回	多重課題トレーニング4	多重課題事例の看護過程の展開		
5回		多重課題事例の看護実践(演習) ・コミュニケーション、フィジカルアセスメント 臨床判断、援助技術、医療安全		
6回		多重課題事例の看護実践(技術試験) ・コミュニケーション、フィジカルアセスメント 臨床判断、援助技術、医療安全		
7回		多重課題事例の看護実践(技術試験) ・コミュニケーション、フィジカルアセスメント 臨床判断、援助技術、医療安全		
8回	リフレクション	自己の看護実践の振り返り		
使用テキスト: 系統看護学講座 基礎看護学[1][2][3] 医学書院				
備考: 臨床経験を踏まえ、看護実践に沿った内容として教授する				

授業科目名の区分	第二学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学実習	実習	1年次後期	2単位/90時間	専任教員
<p>目的:看護の対象と看護の役割を理解し、必要な基本技術、援助技術を用いて日常生活の援助が実践でき、対象に応じた看護の役割及び方法が理解できる。</p> <p>目標:</p> <p>基礎看護学実習Ⅰの目標</p> <p>①対象を取り巻く環境と看護活動の実際を知る。</p> <p>②患者と良好な人間関係を築くとともに、日常生活の援助を実践する。</p> <p>基礎看護学実習Ⅱの目標</p> <p>①対象を取り巻く環境と看護活動の実際を知る。</p> <p>②患者と良好な人間関係を築くとともに、日常生活の援助を実践する。</p> <p>③看護過程のプロセスを用いて、科学的思考に基づいた日常生活への援助ができる。</p>				
評価方法:実習評価表に準じる				
<p>基礎看護学実習Ⅰ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院・病棟の構造、設備と機能を知ることができる。</li> <li>2. 受け持ち患者の情報収集をすることができる</li> <li>3. 情報を整理、分類することができる</li> <li>4. 受け持ち患者の日常生活援助の根拠が述べられる</li> <li>5. 患者の反応を確認しながら、患者の安全・安楽・自立を考し、実施できる</li> <li>6. 実施した援助は患者に適していたかを振り返ることができる</li> </ol> <p>基礎看護学実習Ⅱ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受け持ち患者の情報を収集できる</li> <li>2. 情報を整理、分析、解釈し日常生活上の(実在的な)看護問題が抽出できる</li> <li>3. 看護問題の優先順位が決定できる</li> <li>4. 期待させる結果が表現できる</li> <li>5. 具体策が立案できる</li> <li>6. 患者の反応を確認しながら患者の安全・安楽、自立を考慮し実施できる</li> <li>7. 実施した内容および観察した内容を正確に報告できる</li> <li>8. 実施した内容および観察した内容を記録に書ける</li> <li>9. 期待される結果に基づいて評価し、計画が修正できる</li> <li>10. 自己の姿勢、態度を振り返ることができる</li> </ol>				
履修者へのコメント:次の科目単位が修得されていること				
<p>「看護の基本」に該当する科目</p> <p>看護学概論 基看護学方法論Ⅰ 基礎看護学方法論Ⅱ 基礎看護学方法Ⅲ 基礎看護学方法論Ⅳ 基礎看護学方法論Ⅴ</p>				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① ② ③(医学書院)				
備考:実務経験が豊富な教員が担当する				

授業科目名の区分	第二学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人老年看護学実習	実習	2年次前期	4単位/180時間	専任教員
成人・老年看護学看護学実習Ⅰ 目的: 成人期から老年期にある対象を統合的に理解し、危機的状況から回復過程にある対象の理解を通して看護過程の展開から必要な援助をが実践できる 目標: ①成人期から老年期にある対象者とその家族を理解することができる。 ②看護過程の各プロセスを踏まえて各期における看護過程の展開ができる ③生命の危機的状況下にある対象のアセスメントをし、看護介入できる ④機能障害をもつ対象の理解と残存機能に応じた生活の再構築に向けて援助できる ⑤保健医療チームの一員として、連携の必要性を理解し責任ある行動がとれる ⑥看護実践を通して自己の看護観を深めることができる。				
評価方法: 実習評価表に準じる 病院実習 1. 病院・病棟の構造、設備と機能を知ることができる 2. 受け持ち患者を身体的・精神的・社会的側面から理解できる 3. 受け持ち患者の健康状態をアセスメントし、看護過程の展開ができる 4. 入院生活によって支障をきたしている受け持ち患者の個別性を踏まえた日常生活援助ができる 5. 受け持ち患者の健康段階、健康障害に応じた看護実践ができる 6. 受け持ち患者や家族のQOLを考慮した看護実践はできる 7. 社会復帰に向け、退院後の生活について患者や家族に援助できる 8. 受け持ち患者や家族の健康問題を解決するためのソーシャルサポートシステムが理解できる 9. 看護実践を通して自己の看護観を深めることができる。 地域実習 1. リハビリテーションにおける対象を取りまく環境及び健康に影響する因子や障害が理解できる 2. 成人保健の動向を知り、健康な生活を維持・増進するための看護の役割を理解できる 3. 慢性疾患をもちセルフマネジメント・セルフケアの再獲得を必要とする対象の特徴が理解できる 4. 慢性疾患をもつ対象の検査や治療について理解できる				
履修者へのコメント: 次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅱ				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野(1) 成人看護学総論 (医学書院) 成人看護学(2)～(15) 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論 救急看護学 リハビリテーション看護				
備考: 実務経験が豊富な教員が担当する				

授業科目名の区分	第二学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人老年看護学実習	実習	2年次前期	4単位/180時間	専任教員
成人・老年看護学実習Ⅱ 目的: 成人期から老年期にある対象を統合的に理解し、健康障害をきたしている対象が生涯にわたり疾病をコントロールするためのセルフケア獲得に向けた看護を学ぶ 目標: ①成人期から老年期にある対象者とその家族を理解することができる。 ②看護過程の各プロセスを踏まえて各期における看護過程の展開ができる ③機能障害をもつ対象を理解と残存機能に応じた生活の再構築に向けて援助できる ④疾病をコントロールしながら生活していく対象の理解とセルフケア能力を獲得できる援助ができる ⑤苦痛・死への不安がある対象の理解と苦痛緩和、QOLを高めるための援助ができる ⑥保健医療チームの一員として、連携の必要性を理解し責任ある行動がとれる ⑦看護実践を通して自己の看護観を深めることができる。				
評価方法: 実習評価表に準じる				
病院実習 1. 病院・病棟の構造、設備と機能を知ることができる 2. 受け持ち患者とその家族と良好なコミュニケーションを図ることができる 3. 受け持ち患者の健康状態をアセスメントし、健康障害の特徴を明らかにできる 4. 入院生活によって支障をきたしている受け持ち患者の個別性を踏まえた日常生活援助ができる 5. 受け持ち患者の健康障害に応じた看護実践ができる 6. 受け持ち患者や家族のQOLを考慮した看護実践はできる 8. 受け持ち患者や家族の健康問題を解決するためのソーシャルサポートシステムが理解できる 9. 看護実践を通して自己の看護観を深めることができる。				
地域実習 1. 老年期にある対象の人生観・価値観が理解できる 2. 老年期にある対象の健康維持・増進のための方法が理解できる 3. 健康障害をもちながら生活する高齢者の特徴が理解できる				
履修者へのコメント: 次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ 老年看護学方法論Ⅱ				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)				
備考: 実務経験が豊富な教員が担当する				



授業科目名の区分	第二学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
小児看護学実習	実習	2年次前期	2単位/90時間	専任教員
<p>目的:小児期の対象や家族を理解し、健康児や疾患及び障害をもつ子ども達の健康レベルに応じた成長発達の問題解決に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p> <p>目標:</p> <p>①小児特徴を踏まえ、子どもの取り巻く環境について理解できる。</p> <p>②子どもが健やかに育つ環境の中で、楽しみながら生活している児の行動を理解できる。</p> <p>③健康を害して入院している小児の問題を明確にし、科学的根拠に基づいた看護計画が立案できる。</p> <p>④小児看護における基礎的知識を応用し、実施・評価できる。</p> <p>⑤小児と家族への援助の必要性がわかり、地域で健やかに生活できるように支援できる。</p>				
評価方法:実習評価表に準じる				
<p>地域(保育園・児童発達支援センター)実習</p> <p>1.乳幼児の成長発達について対象者を通して理解し、小児の特徴をとらえることができる。</p> <p>1)乳幼児の成長発達を対象者を通して述べるができる。</p> <p>2)子どもたちとコミュニケーション図ることができる。</p> <p>2.乳幼児の成長発達に応じた基本的日常生活の援助の方法を理解できる。</p> <p>1)小児の安全を守るために必要な環境を述べるができる</p> <p>2)乳幼児の食事・排泄・睡眠・衣服の着脱・遊び・他児との関わりについて述べるができる。</p> <p>3)小児の感染予防を防ぐ援助が考えられ、実施できる。</p> <p>3.乳幼児の成長発達に応じた遊びの意義と援助方法が理解できる。</p> <p>1)小児にとっての遊びの重要性を述べるができる。</p> <p>2)乳幼児の遊びと成長発達の関連を述べるができる。</p> <p>3)乳幼児の遊びと成長発達にあった遊びの援助ができる。</p> <p>4.療育を必要とする小児と、その家族を支援する社会資源及び多職種との連携を学ぶことができる。</p>				
<p>病院実習</p> <p>1.病棟の概要を理解し、チームの一員として円滑な実習ができる。</p> <p>2.受け持ち児の特徴・健康障害の状況を理解し、看護過程の技術を用いて看護を実施できる。</p> <p>3.立案した計画をもとに、受け持ち児の成長発達段階に応じた日常生活の援助ができる。</p> <p>4.小児看護を通して自己の小児観を深めることができる。</p>				
<p>履修者へのコメント:次の科目単位が修得されていること</p> <p>「看護の基本」に該当する科目</p> <p>小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ</p>				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 (医学書院)				
備考:実務経験が豊富な教員が担当する				

授業科目名の区分	第二学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
母性看護学実習	実習	2年次前期	2単位/90時間	専任教員
<p>目的:母性看護の対象を理解し、周産期の対象に応じた看護ができる基礎的知識、技術、態度を養う。</p> <p>目標:</p> <p>①妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的な経過と母子関係が理解できる。</p> <p>②妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族への看護の実際が理解できる。</p> <p>③保健医療福祉チームの一員として継続看護の視点を持ち、看護師の役割と責任を自覚することができる</p> <p>④母性看護学実習を通して、親性観(母性・父性)を深めることができる。</p> <p>⑤地域に暮らす母子に必要な健康支援を理解することができる。</p>				
<p>評価方法:実習評価表に準じる</p> <p>病院実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院・病棟の構造、設備と機能を知ることができる。</li> <li>2. 妊娠の正常な経過を理解し、個々に応じた看護、保健指導が理解できる。</li> <li>3. 分娩の経過をふまえた産婦、出生直後の新生児の理解ができる。</li> <li>4. 生命の誕生を真摯な態度で受け止めることができる。</li> <li>5. 早期新生児の生理的特徴を理解した上で、観察とアセスメントができる。</li> <li>6. 早期新生児の看護の原則を理解し、診察・検査およびその介助の実際を理解できる。</li> <li>7. 褥婦の生理的特徴を理解した上で、観察とアセスメントができる。</li> <li>8. 進行性変化を理解し、促進するための援助が理解できる。</li> <li>9. 進行性変化を理解し、母乳確立に向けての援助が理解できる。</li> <li>10. 母親役割および母子関係が円滑にいくための援助が理解できる。</li> <li>11. 母子の生活支援のための社会資源と制度について理解できる。</li> </ol> <p>地域実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における保健活動の実際を学び、地域で生活する母子のための援助・支援を理解することができる。</li> <li>2. 地域における保健問題解決に必要な社会資源と、その活用方法を理解することができる。</li> </ol>				
<p>履修者へのコメント:次の科目単位が修得されていること</p> <p>「看護の基本」に該当する科目</p> <p>母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ</p>				
<p>使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論(医学書院)</p>				
<p>備考:実務経験が豊富な教員が担当する</p>				

授業科目名の区分	第二学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
精神看護学実習	実習	2年次前期	2単位/90時間	専任教員
<p>目的: 人々の精神保健における看護の役割と精神的な健康問題を抱える対象の理解及びセルフケアに向けての知識・技術・態度を修得する</p> <p>目標:</p> <p>①精神に障害を持つ人との援助関係の構築過程について学び、自己洞察を深める。</p> <p>②精神に障害を持つ対象を受け持ち、看護過程の展開をする。</p> <p>③精神に障害を持つ対象を一人の人間としてありのままに受け止め理解する。</p> <p>④他職種とのかかわりを通して、チーム医療の中での看護師の果たす役割について理解する。</p> <p>⑤精神に障害を持つ人への地域生活を支援する制度や体制を知り、地域での生活について考える。</p>				
<p>評価方法: 実習評価表に準じる</p> <p>病院実習</p> <p>1.入院患者の治療的環境が理解できる。</p> <p>2.患者—看護師関係の発展過程を理解できる。</p> <p>3.患者を尊重し、コミュニケーションを適切にとることができる。</p> <p>4.患者のセルフケア能力をアセスメント、必要な援助を見出すことができる。</p> <p>5.受け持ち患者に必要な援助が実践できる。</p> <p>6.自己の内面の変化に気づき、自己洞察できる。</p> <p>地域実習(デイケア施設、自立支援施設、就労支援事業所)</p> <p>1.地域で生活している対象への援助を通して、社会復帰について考えることができる。</p>				
<p>履修者へのコメント: 次の科目単位が修得されていること</p> <p>「看護の基本」に該当する科目</p> <p>精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ</p>				
<p>使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎・精神看護の展開 (医学書院)</p>				
<p>備考: 実務経験が豊富な教員が担当する</p>				

授業科目名の区分	第二学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
地域・在宅看護論実習	実習	2年次前期	2単位/90時間	専任教員
<p>目的: 地域で生活している人々の健康の保持・増進や、地域で療養している人々とその家族の特徴を理解し、住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるように援助するための基礎的な能力を養う。</p> <p>目標:</p> <p>①在宅で療養している対象と家族を尊重し、対象との援助関係について理解する。</p> <p>②在宅療養者とその家族の特徴と生活上および健康上の課題を理解する。</p> <p>③訪問看護に至る過程および問題解決の考え方や支援方法を理解する。</p> <p>④在宅における看護実践の方法を知り、その一部を実施することができる。</p> <p>⑤社会資源の活用、関連機関との連携、協働について理解を深め、保健医療チームの中での看護の役割を考える。</p> <p>⑥地域における看護のあり方について考える。</p> <p>⑦自己の課題を明確にし、主体的に学習できる。</p>				
評価方法: 実習評価表に準じる				
訪問看護ステーション実習				
<p>1. 訪問看護ステーションの機能と役割を理解できる</p> <p>1) 訪問看護ステーションの概要が理解できる</p> <p>2) 訪問看護ステーションの機能と役割を理解できる</p> <p>3) 訪問前の確認事項・準備について理解できる</p> <p>2. 訪問を通して、在宅療養者と家族の療養上の問題と看護の方向性が理解できる</p> <p>1) 在宅療養者の心身の健康状態や生活状況・生活環境を理解できる</p> <p>2) 在宅療養者の家族(介護者)の心身の健康状態と介護の状況を理解できる</p> <p>3) 利用している社会資源とその目的・方法を理解できる</p> <p>4) 在宅療養者とその家族が抱える問題を明らかにして看護の方向性を理解できる</p> <p>3. 療養者・家族に必要な援助を看護計画し、一部実践し評価できる</p> <p>1) 訪問時の援助を計画できる</p> <p>2) 訪問時、指導者とともに計画に基づき日常生活行動の援助・医療処置の援助・介護相談などを実施できる</p> <p>3) 訪問看護師の望ましい態度について考え実施できる</p> <p>4) 療養者・家族の反応をもとに評価し、療養者・家族にあった援助について考えられる</p> <p>4. 在宅療養者を支える社会資源の活用と在宅ケアシステムを理解できる</p> <p>1) 訪問事例をもとに在宅療養者を支援するネットワーク、社会資源の種類と活用方法について理解できる</p> <p>2) 在宅療養を支える医療福祉の経済について理解できる</p> <p>5. 訪問看護師の役割と責務について理解できる</p> <p>1) 在宅における看護と施設内看護(病院)について比較し説明できる</p>				
地域実習				
<p>1. 地域の生活者の健康に対するニーズの実態が理解できる</p> <p>2. 地域の生活者の健康保持増進の方法が理解できる</p>				
履修者へのコメント: 次の科目単位が修得されていること				
「看護の基本」に該当する科目				
在宅看護概論 在宅看護方法論Ⅰ 在宅看護方法論Ⅱ				
使用テキスト: 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)				
備考: 実務経験が豊富な教員が担当する				

授業科目名の区分	第二学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
看護の統合と実践実習	実習	2年次後期	2単位/90時間	専任教員
<p>目的:看護チームの一員としての体験、複数受け持ち患者を通して、知識・技術・態度を統合し看護実践力を養う。</p> <p>目標:</p> <p>①看護管理の実際を知ることにより、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める</p> <p>②チームリーダーの役割、チームメンバーの役割を理解し、業務の調整や、他部門との連携の実際を理解する</p> <p>③複数受け持ち対象の健康問題・課題を明らかにし、ケアの優先順位と時間管理を考慮した看護が実践できる</p> <p>④統合実習を通して、看護師としての自己の目標や課題を明確にできる</p>				
<p>評価方法:実習評価表に準じる</p> <p>病棟実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院組織における看護管理が理解できる</li> <li>2. 病棟管理者の役割が理解できる</li> <li>3. 看護管理が理解でき、看護チームのリーダーとして行動できる</li> <li>4. メンバーとして役割が理解できる</li> <li>5. メンバーとして責任の重要性が理解できる</li> <li>6. リーダーへの連絡・相談・報告することの意味が理解できる</li> <li>7. メンバー間と協働して患者・家族・スタッフ共に人間関係を保つことができる</li> <li>8. カンファレンスではメンバーの役割を果たすことができる</li> <li>9. リーダーの役割が理解できる</li> <li>10. チームメンバーへの連絡、調整ができる</li> <li>11. 受け持ち患者の優先度に応じた援助をメンバーに指示できる</li> <li>12. チームメンバーの業務分担ができる</li> <li>13. 患者のを進行できる</li> <li>14. ワークシートを作成することができる</li> <li>15. 担当看護師への報告・連絡・相談を行いながら援助することができる</li> <li>16. 複数受け持ち患者に必要な(治療・処置・時間・方法)援助が把握できる</li> <li>17. 看護の優先度を考えながら援助することができる</li> <li>18. チームメンバーとして協働して援助等を理解することができる</li> <li>19. 受け持ち患者の看護計画の評価・修正ができる</li> <li>20. 統合実習を振り返り、自己の傾向を知ることができる</li> <li>21. 今後の課題を見出し探求することができる</li> </ol>				
<p>履修者へのコメント:次の科目単位が修得されていること</p> <p>「看護の基本」に該当する科目</p> <p>災害看護と国際協力 医療安全とリスクマネジメント 看護管理と研究 看護統合技術</p>				
<p>使用テキスト:系統看護学講座 統合分野 災害看護学 国際看護学 医療安全 看護管理 基礎看護学①看護学概論(医学書院)</p>				
<p>備考:実務経験が豊富な教員が担当する</p>				